

障害者の移動手段確保対策事業の概要

1 障害者の移動手段確保対策事業について

- ・ バス乗車券交付事業 (※)
 - ・ 福祉キャブ (リフト付き自動車) 運行事業
 - ・ 重度障害者福祉タクシー利用券交付事業 (※)
- ※ バス乗車券と福祉タクシー利用券はいずれか一方の選択制

→ 平成24年度・25年度に利用者の利便性向上と重度障害者の支援の充実に目的に見直しを実施

2 各事業の見直し内容について

表1 バス乗車券交付事業

実施時期	対象者	介助者の範囲	交付内容
平成24年9月まで	身体障害者手帳 1～6級 療育手帳 A1～B2 (知能指数75以下) 精神障害者保健福祉手帳 1～3級	12歳未満のすべての障害者 第1種身体障害者手帳所持者 療育手帳 A1・A2 (知能指数35以下) または18歳未満のB1 (知能指数36以上50以下) 精神障害者保健福祉手帳 1級	市バス特別乗車証 民営バス定期券 または回数券 ※いずれか一方の選択制
平成24年10月から	身体障害者手帳 1～4級 療育手帳 A1～B1 (知能指数50以下) 精神障害者保健福祉手帳 1～3級 ※身体障害者手帳5・6級および療育手帳B2(知能指数51以上75以下)は社会福祉施設に通所している者	身体障害者手帳 12歳未満かつ1級～4級 療育手帳 12歳未満かつA1～B1 (知能指数50以下) 精神障害者保健福祉手帳 12歳未満かつ1級～3級	川崎市ふれあいフリーパス (市営・民営共通のフリーパス)

表2 福祉キャブ (リフト付き自動車) 運行事業

実施時期	対象者	サービス内容	運行台数
平成24年度まで	身体障害者のうち、外出時に車いすが必要な方 移動にストレッチャーが必要な方	利用回数 1回4時間以内、月4回程度 利用地域 市内及び近隣地域	6台
平成25年度から (現行)	内部障害者で外出時に介助が必要な方 その他、実施主体が特に認めた者	利用料金 1時間以内400円、以後1時間ごとに400円	7台

表3 重度障害者福祉タクシー利用券交付事業

実施時期	対象者	交付内容
平成24年9月まで	身体障害者手帳 1～2級 (※) 療育手帳 A1～A2 (知能指数35以下) 身体障害者手帳3級 (※) かつ療育手帳B1 (知能指数36以上50以下)	交付枚数 1か月あたり6枚 (週3回以上人工透析で通院している腎臓機能障害の方は10枚) 助成額 1枚あたり660円 (初乗り運賃相当) 利用枚数 1回の乗車につき1枚
平成24年10月から	身体障害者手帳 1～2級 (※)	交付枚数 1か月あたり7枚 (週3回以上人工透析で通院している腎臓機能障害の方は14枚) 助成額 1枚あたり500円 利用枚数 1回の乗車につき複数枚利用可
平成25年4月から (現行)	療育手帳 A1～A2 (知能指数35以下) 身体障害者手帳3級 (※) かつ療育手帳B1 (知能指数36以上50以下) 精神障害者保健福祉手帳 1級	

※ 下肢・体幹・視覚および内部障害に限る

3 重度障害者福祉タクシー利用券交付事業の実績

表4 平成27年度の交付者数

対象者	交付者数
ア 身体障害者 身体障害者手帳1・2級の下肢・体幹・視覚・内部障害者	9,588人
内部障害のうち、人工透析のために週3回以上通院されている腎臓機能障害者 (再掲)	1,802人
イ 知的障害者 療育手帳 A1・A2 (知能指数35以下)	892人
ウ 重複障害者 身体障害者手帳3級の下肢・体幹・視覚・内部障害者かつ療育手帳B1 (知能指数36以上50以下)	11人
エ 精神障害者 精神障害者保健福祉手帳1級	234人
合計	10,725人

4 議会におけるこれまでの経過

陳情審査の結果

- (1) 平成27年 1月27日 陳情第192号 燃料費助成 = 継続審査
- (2) 平成27年 11月16日 陳情第34号 福祉タクシー利用券 = 趣旨採択

1 これまでの取り組み

平成24年10月及び平成25年4月の「障害者の移動手段確保対策事業の見直し」から3年が経過した中で、重度障害者福祉タクシー利用券の交付者数及び利用枚数は年々増加傾向にある。

今後の効率的・効果的な事業実施について検討を行うため、アンケート調査や各団体との意見交換、自治体ヒアリングを実施した。

表 重度障害者福祉タクシー利用券事業 過去3年間の実績

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
交付者数	8,987人	10,003人	10,725人
事業費	279,267千円	315,417千円	341,498千円

(1) 利用者アンケートの実施

ア 調査目的	重度障害者福祉タクシー利用券について、交付対象者に対して利用実態およびニーズを調査し、効率的・効果的な運用を検討するため。
イ 対象者	重度障害者福祉タクシー券交付対象者のうち、無作為抽出した約1,000名
ウ 調査方法	アンケート調査表（A4用紙表裏）を用いた無記名による記入調査 ※ 点字使用者については、点字版のアンケートも配布
エ 配布・回収期間	平成28年5月27日（金）～6月17日（金）
オ 配布・回収方法	郵送
カ 有効回答数	608（有効回答率 62.9%）
キ 調査結果	資料3（概要）および資料4（本編）を参照

(2) 神奈川県タクシー協会との意見交換

ア 国（国土交通省）の動向

国土交通省自動車局に設置されている「新しいタクシーのあり方検討会」において、「タクシー革新プラン2016～選ばれるタクシー～」を策定し、訪日外国人の観光需要や高齢者等の日常生活需要の喚起、またこれに伴う生産性の向上を図る観点から初乗り運賃の見直しについての議論がなされている。

具体的取組として、今年度の予算事業として、本年8月5日から約1か月間、都内4か所でタクシーの初乗り運賃の引下げに係る実証実験が行われた。

イ 神奈川県タクシー協会の動向

国の初乗り運賃の見直しの動きを受けて、運賃引き下げの検討に積極的な業者と慎重な業者の間で意見が分かれており、初乗り運賃の見直しについて引き続き検討していくとのこと。

(3) 障害者当事者団体との意見交換

ア 意見交換を行った団体

- ・ 腎臓病連絡協議会
- ・ 視覚障害者福祉協会
- ・ 手をむすぶ親の会（知的障害）
- ・ 肢体不自由児者（父母の会）

イ 主な意見

- ・ 計算がしやすいといった観点から、現行の500円券のままがよい
- ・ 利便性の観点から500円券と100円券にしてほしい
- ・ 分かりやすさや判別のしやすさという観点からすべて300円券にしてほしい

(4) 燃料費助成制度に関する自治体ヒアリング

セルフ式のスタンドでの利用が難しいことや、助成対象の運転手の範囲の設定や、本人の外出以外での利用が可能であるといったことが課題である。

2 今後の方向性について

川崎市重度障害者福祉タクシー事業の趣旨は、「社会生活上の移動に制約を伴う重度障害者に対して、タクシー利用券を交付し、外出時に利用するタクシー料金の乗車料金の一部を助成するもの」となっている。

タクシーの初乗り運賃（距離）の見直しという流れの中で、重度障害者福祉タクシー利用券交付事業について、燃料費助成制度を含め、今回の利用者アンケートで得られたデータや、各障害者当事者団体・タクシー事業者等の意見を参考にしながら、障害者本人の移動手段確保という制度の目的や、持続可能性の観点から、効率的・効果的な事業実施について引き続き検討を重ねていく。

重度障害者福祉タクシー券 利用者調査結果報告書（概要）

資料 3

1 日頃利用している外出手段について（複数回答可）

(1) 福祉タクシー券の利用方法

通院	80.4%
買物趣味レジャー	40.3%
役所・銀行手続き	26.2%
通勤通学通所	12.2%
その他	12.2%

(2) 1か月平均利用回数<3障害共通>

通勤通学通所	4.6回
通院	4.0回
買物趣味レジャー	2.9回
役所・銀行手続き	1.8回
その他	2.2回

(3) 外出目的ごとの平均片道料金<3障害共通>

通院	1,954円
通勤通学通所	1,745円
買物趣味レジャー	1,732円
役所・銀行手続き	1,301円
その他	3,143円

2 タクシー以外の外出手段の割合について（複数回答可）

(1) 全体<3障害共通>

自家用車	44.2%
電車	42.4%
バス	34.9%
病院送迎車	11.5%
福祉有償運送	7.2%
福祉キャブ	5.9%
その他	15.5%

- ※1 障害別：知的障害者が自家用車割合が高い→76.9%
- ※2 年齢別：若年層が自家用車割合が高い →75~84%
- ※3 地区別：麻生区が自家用車割合が高い →68.3%

3 タクシー券の種類について

(1) 券の種類<3障害共通>

500円券のみ	50.5%
500円券+100円券	40.8%
初乗り運賃	4.5%
400円券+100円券	1.2%
100円券のみ	1.0%
300円券+100円券	0.3%
その他	1.6%

(2) 券の種類<障害別・500円券/500円+100円券再掲>

500円券のみ	身体障害者	51.4%
	知的障害者	48.7%
	精神障害者	38.5%
500円券+100円券	身体障害者	39.9%
	知的障害者	41.1%
	精神障害者	61.5%

(3) 希望理由（主な意見）

ア 500円券のみ

- ・ 一種類の方が利用し易い
- ・ 料金精算時に分かり易い
- ・ 複数の券種は使いにくい（今の制度で特に問題無い）

- ・ 500円券のみで十分
- ・ 細かくすると管理が大変

イ 500円券+100円券

- ・ 自己負担金額が100円未満で済む
- ・ タクシー券はおつりが出ないので細かい方が良い
- ・ 効率的に使用できる

ウ 400円券+100円券

- ・ 初乗り料金の見直しが行われるので

エ 初乗り料金

- ・ ワンメーターの利用が多い
- ・ 分かり易い

4 燃料費助成について

(1) タクシー券と燃料費のどちらを選択しますか<3障害共通>

タクシー券	85.1%
燃料費	14.9%

(2) タクシー券と燃料費のどちらを選択しますか<障害別>

タクシー券	身体障害者	87.1%
	知的障害者	57.9%
	精神障害者	91.7%
燃料費	身体障害者	12.9%
	知的障害者	42.1%
	精神障害者	8.3%

(3) タクシー券と燃料費のどちらを選択しますか<年齢別>

タクシー券	10歳未満	35.3%
	10代	52.2%
	20代	75.0%
	30代	93.8%
	40代	89.6%
	50代	77.6%
	60~65歳未満	83.9%
65歳以上	91.0%	
燃料費	10歳未満	64.7%
	10代	47.8%
	20代	25.0%
	30代	6.3%
	40代	10.4%
	50代	22.4%
	60~65歳未満	16.1%
65歳以上	9.0%	

資料 4

重度障害者福祉タクシー券 利用者アンケート調査結果報告書

平成28年10月

川崎市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査設計.....	1
3	回収状況.....	1
4	調査の信頼度.....	2
5	報告書における注意点.....	2
II	調査結果.....	2
1	障害者本人について（問5、問6、問7、問8）.....	2
2	日頃利用している外出手段について（問1、問2）.....	5
3	制度に対する要望について（問3、問4、問9）.....	22
4	自由記述欄における意見・要望について（問10）.....	37
5	調査結果の考察.....	38
6	アンケートに利用した調査票について.....	39

I 調査の概要

1 調査の目的

平成24年10月および平成25年4月に実施した障害者の移動手段確保対策事業の見直しから3年が経過し、重度障害者福祉タクシー利用券の交付者数および利用枚数は年々増加傾向にあります。

また、第4次かわさきノーマライゼーションプランの中で、障害者の移動手段確保対策事業については「見直し効果の検証と事業展開」を掲げていることから、今後の効率的・効果的な事業実施を目的として、重度障害者福祉タクシー券の利用者がどのような利用をしていて、どのようなニーズがあるかということ进行调查するため、利用者アンケートを実施しました。

2 調査設計

(1) 調査対象者

重度障害者福祉タクシー券交付対象者のうち、無作為抽出した約1,000名

(2) 調査方法

アンケート調査表（A4用紙表裏）を用いた無記名による記入調査

※ 点字使用者については、点字版のアンケートも配布

(3) 調査期間

平成28年5月27日（金）～6月17日（金）

(4) 調査内容

- ・福祉タクシー券を利用した外出について
- ・タクシー以外の外出について
- ・利用者本人の状況について
- ・郵送および燃料費助成の意向について

3 回収状況

配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
967	610	63.1%	608	62.9%

4 調査の信頼度

社会調査信頼度 95%以上

必要標本数は371人以上であり、今回の調査サンプルは配布数967人、有効回答数608人であるため、結果の精度は保証されます。

5 報告書における注意点

- それぞれの質問の回答者数をnと表記しています。
- 等級別、年齢別などは、それぞれの無回答があるため、合計が全体とは一致しません。
- %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合があります。
- 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、%の合計が100%を超えることがあります。

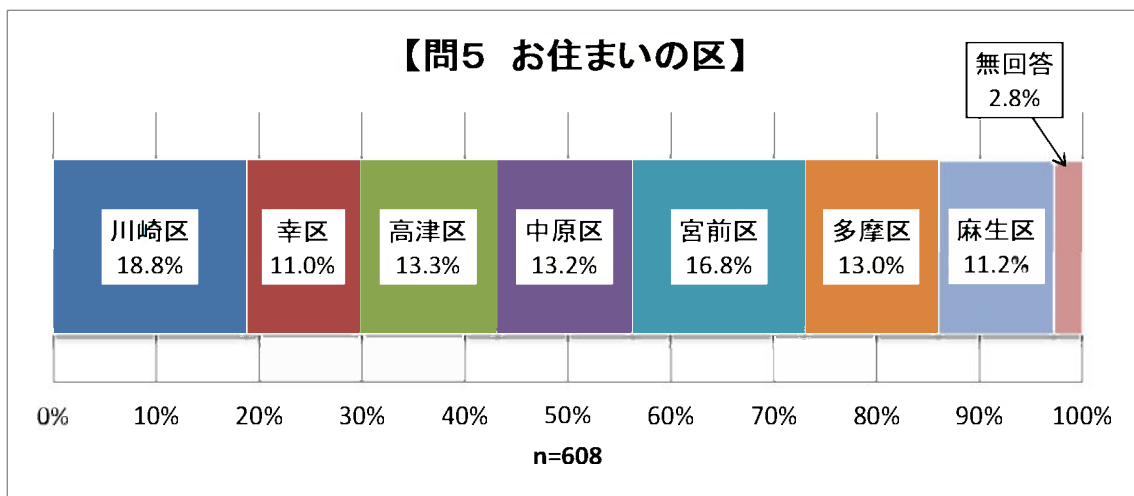
II 調査結果

1 障害者本人について（問5、問6、問7、問8）

（1）お住まいの区について

問5 タクシー券を利用されている方の、現在のお住まいの区を教えてください。

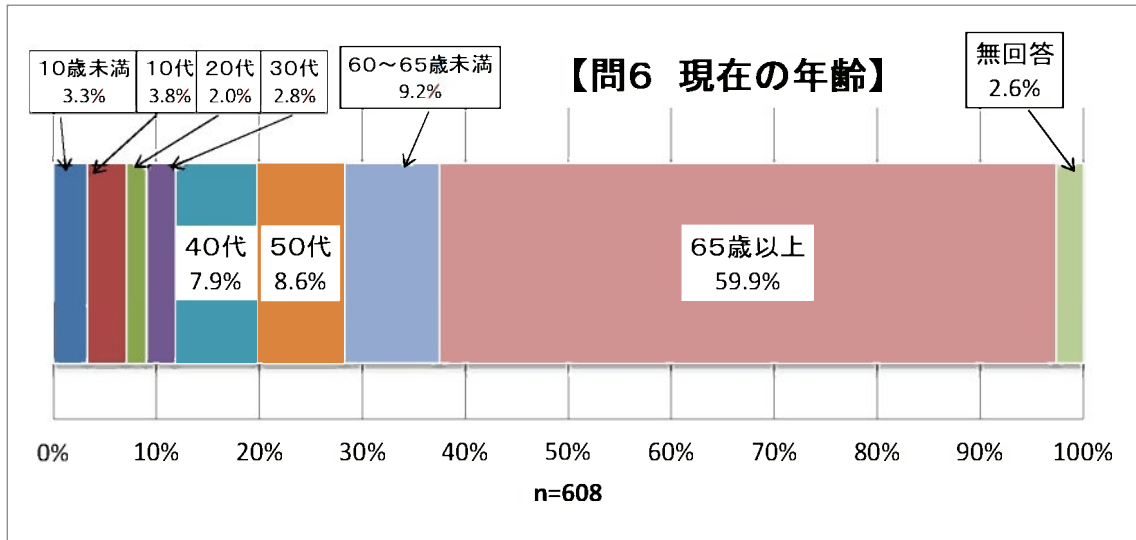
福祉タクシー券の利用者については、川崎区、宮前区が比較的多くなっています。



(2) 現在の年齢について

問6 タクシー券を利用されている方の、現在の年齢を教えてください。

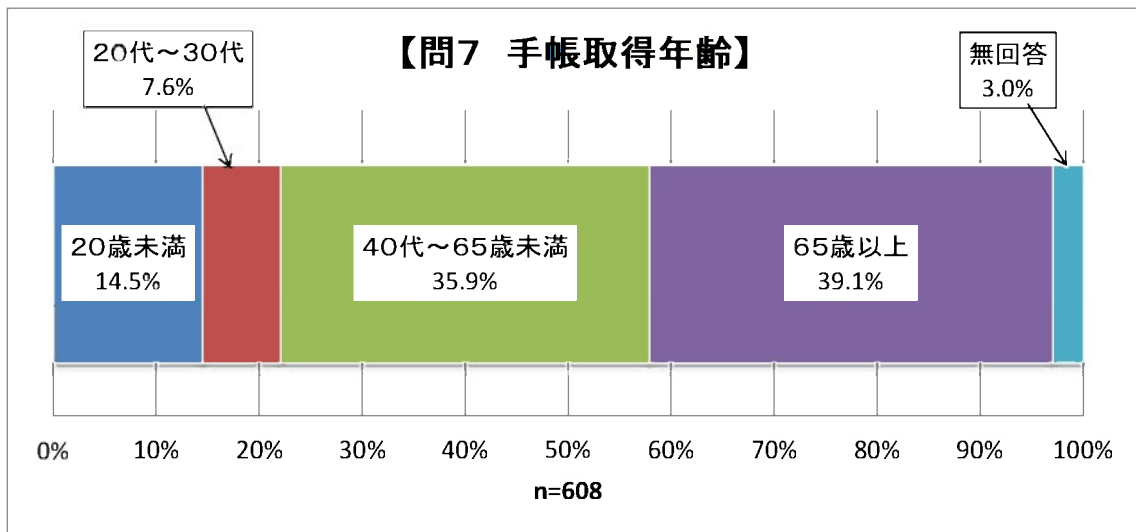
福祉タクシー券の利用者の年齢については、65歳以上が過半数を占める状況となっています。



(3) 障害者手帳を取得した年齢について

問7 タクシー券を利用されている方の、障害者手帳を取得した時の年齢を教えてください。

福祉タクシー券の利用者の手帳取得年齢については、40代以上で手帳を取得した方が大半となっています。

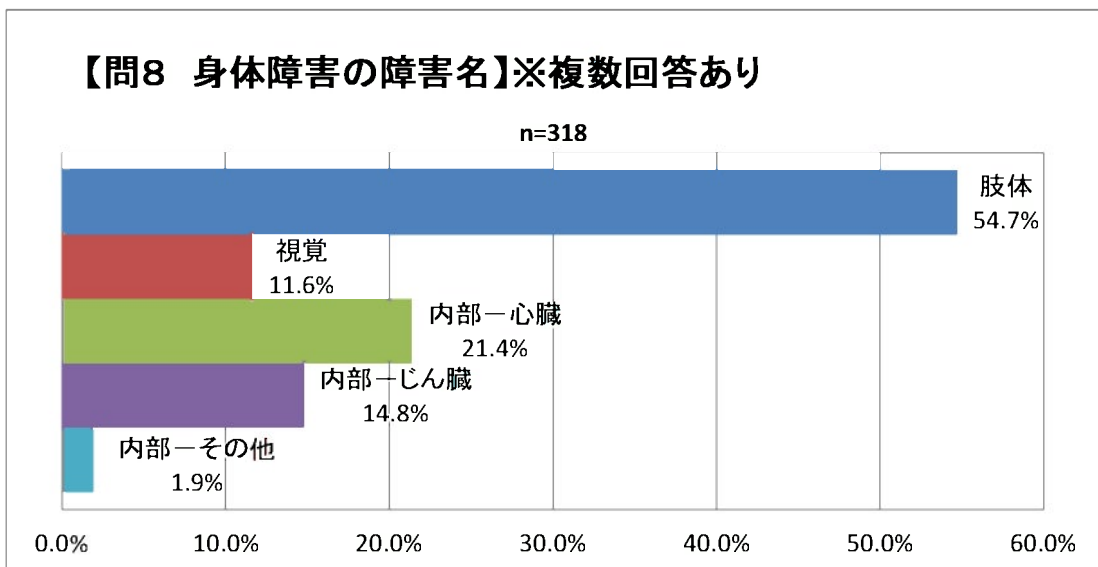
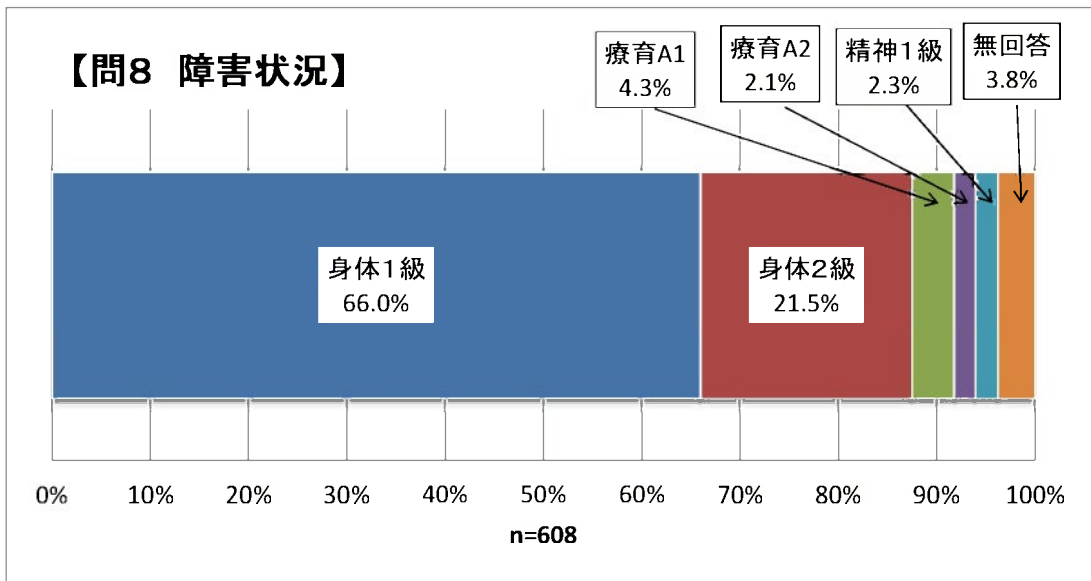


(4) 障害状況について

問8 次のどの手帳をお持ちですか。(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)

「身体障害者手帳」をお持ちの方は、【障害名】にも〔O〕を付けてください。

福祉タクシー券の利用者の障害状況としては、身体障害者の方が回答者全体の9割近くを占めています。また、身体障害者手帳所持者のうち、障害名を回答した方については、肢体不自由が半数以上で、内部障害がそれに続いています。



2 日頃利用している外出手段について（問1、問2）

(1) 福祉タクシー券の利用方法について

問1 タクシー利用券の使用方法を教えてください。

① タクシー利用券をどのような外出目的に利用していますか。

② その頻度は、平均で何回くらいですか。

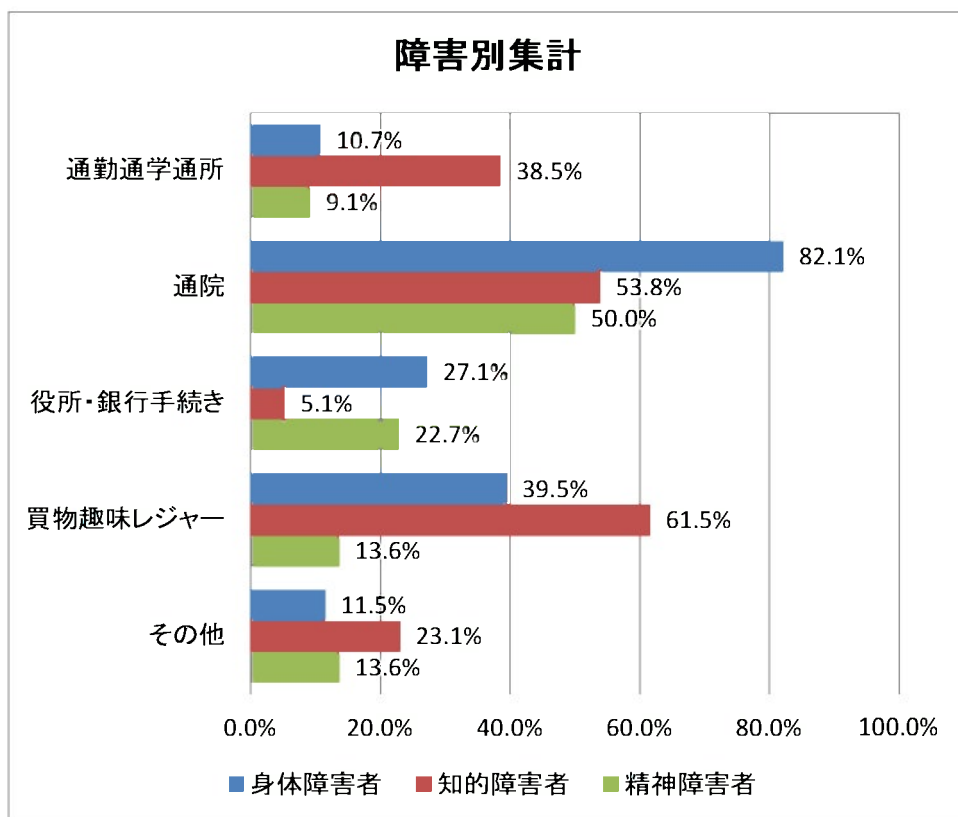
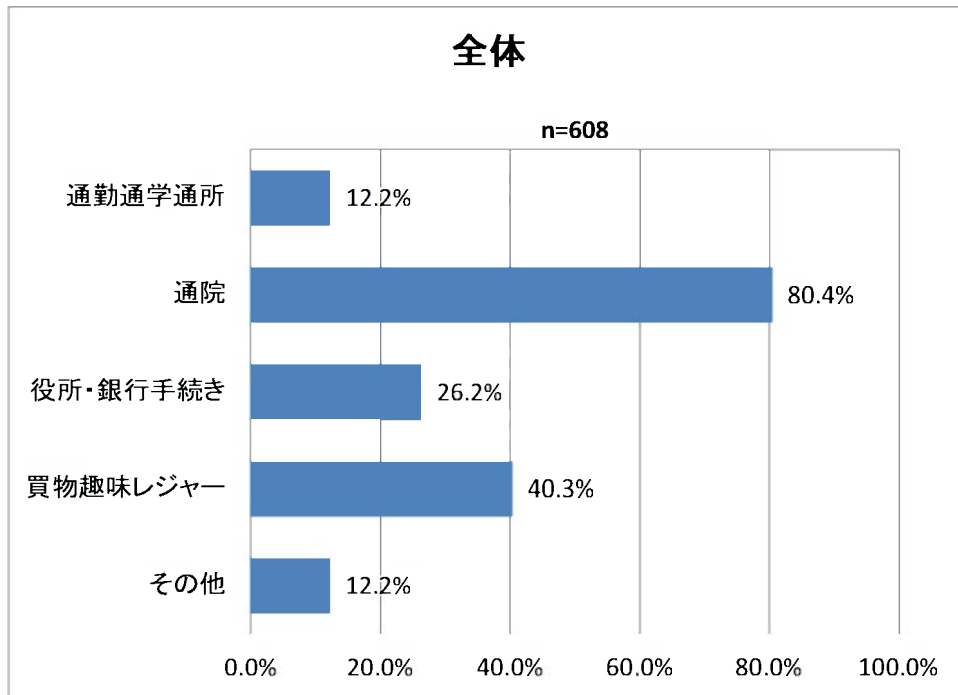
③ それぞれの外出先の片道1回にかかる運賃は、平均でどのくらいですか。

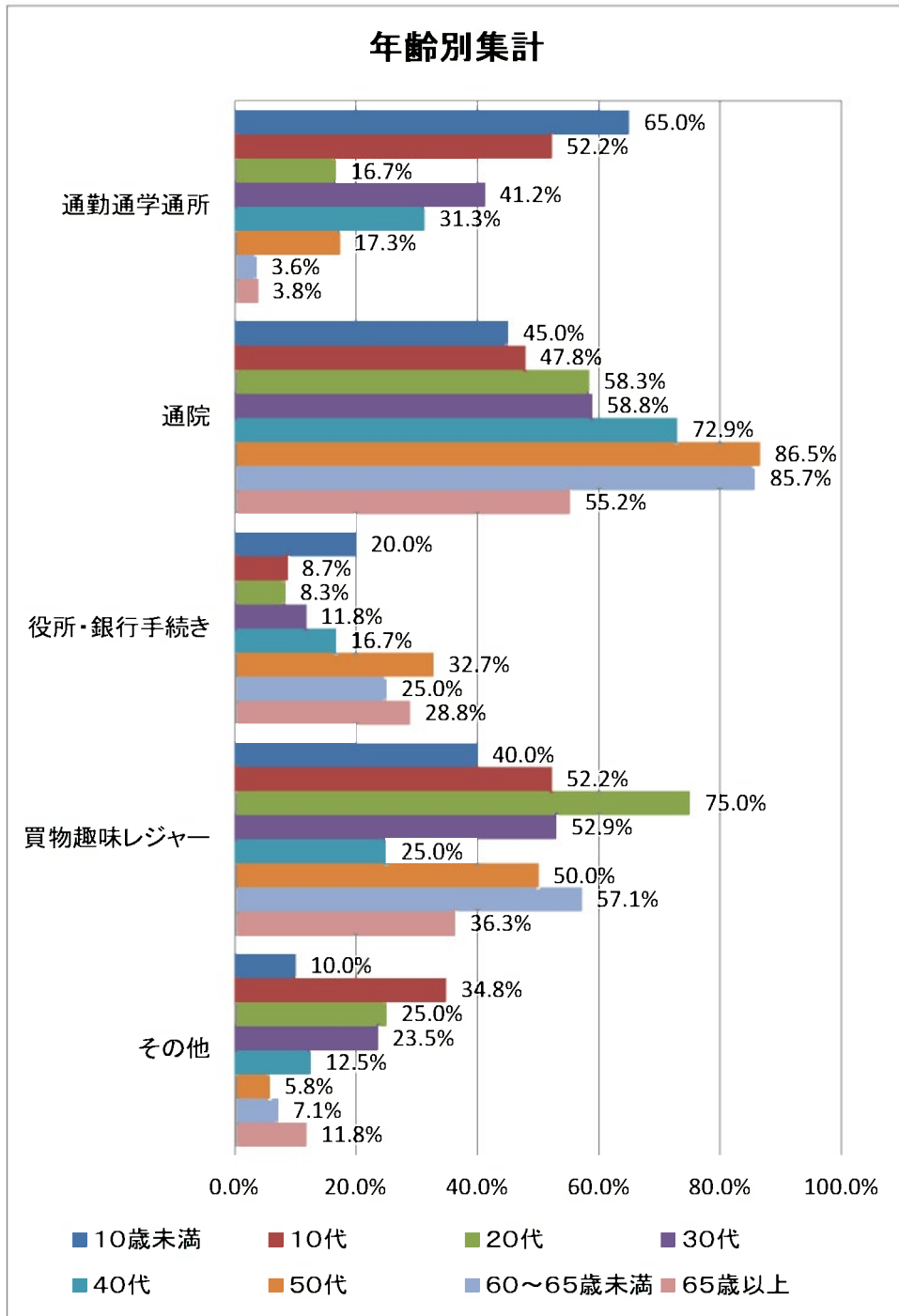
(次の表の中で当てはまるものすべてに〔O〕を付け、②・③をご記入ください。)

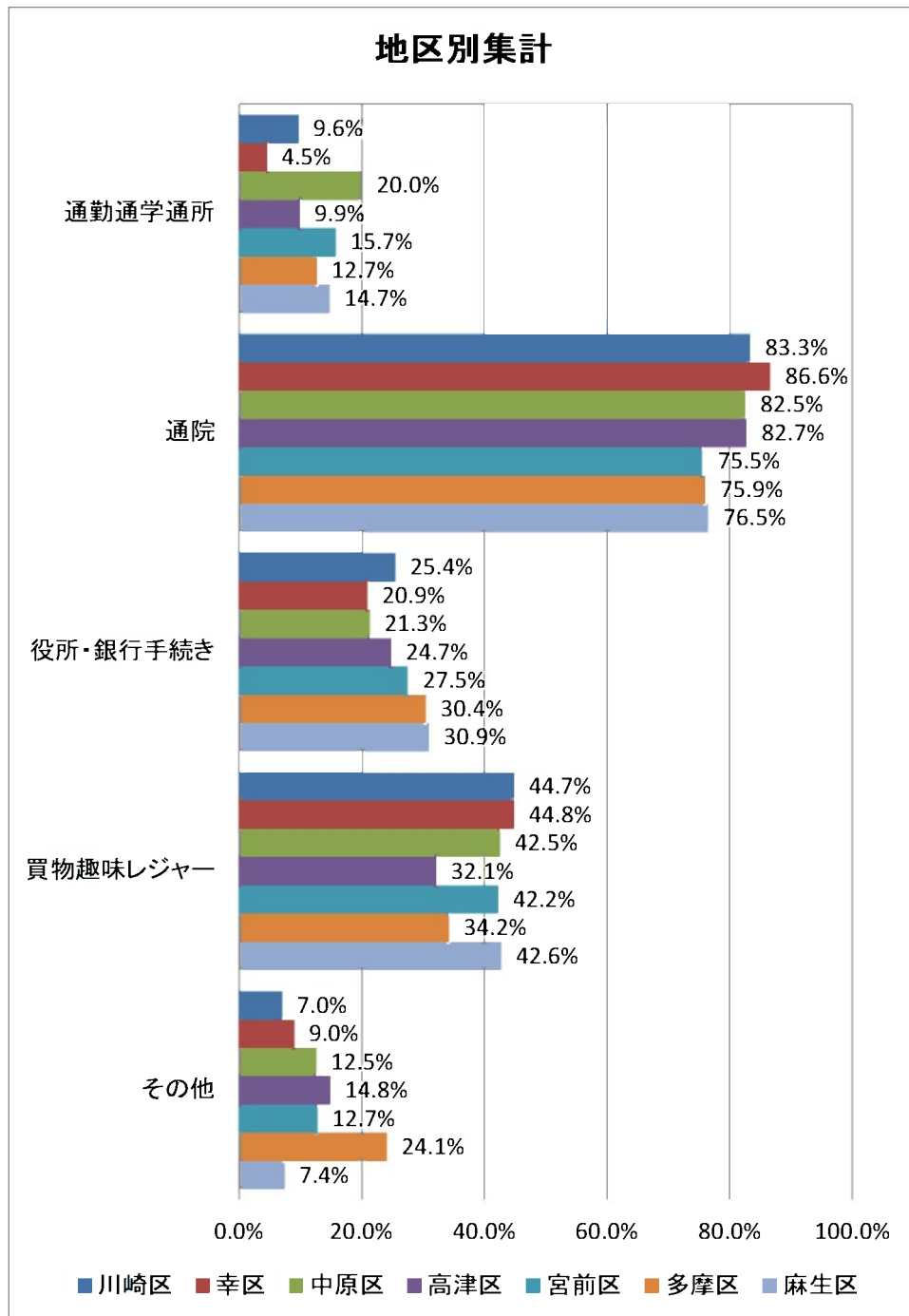
① 外出の目的	② 外出の頻度	③ 片道1回のおおよその運賃
1. 通勤・通学・通所	月 回	円
2. 通院	月 回	円
3. 役所や銀行の手続き	月 回	円
4. 買い物・趣味・レジャー	月 回	円
5. その他 ()	月 回	円

いずれの分類の場合でも、通院時にタクシーを利用する方が多いという結果となりました。障害別では、身体障害者については通院、知的障害者については通勤・通学・通所の割合がそれぞれ高いことがわかります。年齢別では20歳未満の通勤・通学・通所、50歳以上の通院、20代の買い物・趣味・レジャーの割合が高いことがわかります。地区別では幸区において通勤・通学・通所の割合が低いこと以外は特徴的な傾向はみられません。

ア それぞれの外出目的の割合（障害別・年齢別・地区別）







■ 問1の有効回答数について

全体

n=608

障害別

身体障害者 n=532	知的障害者 n=39	精神障害者 n=22
-------------	------------	------------

年齢別

10歳未満 n=20	10代 n=23	20代 n=12	30代 n=17
40代 n=48	50代 n=52	60~65歳未満 n=56	65歳以上 n=364

地区別

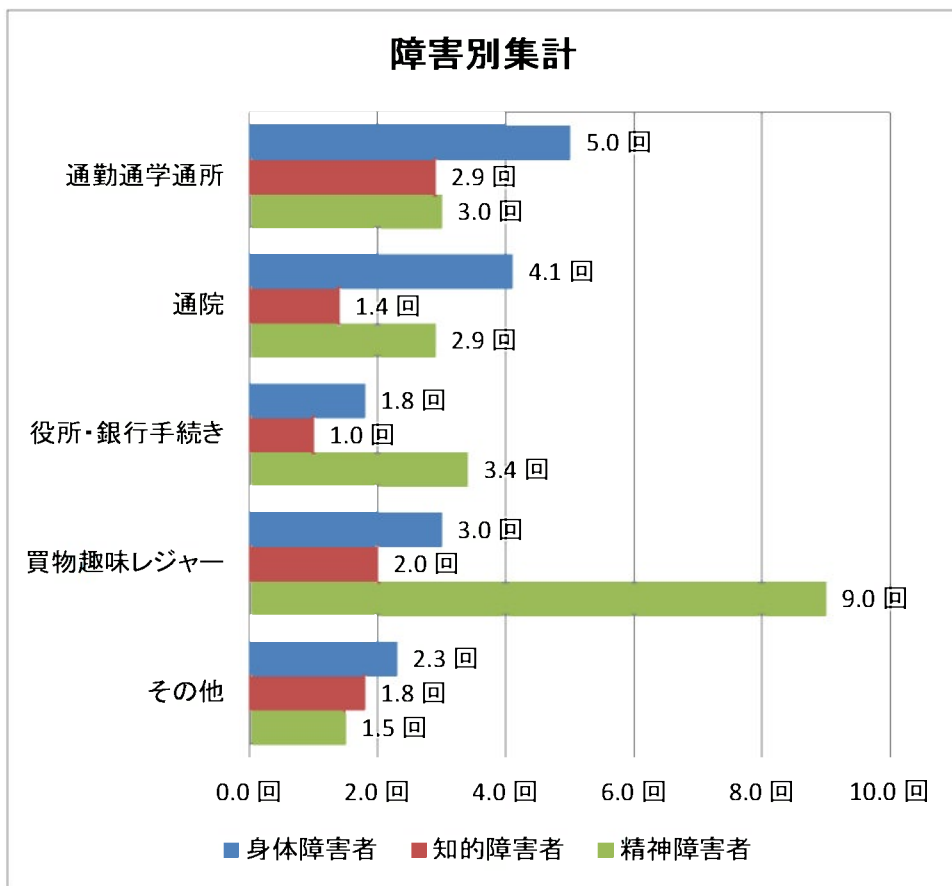
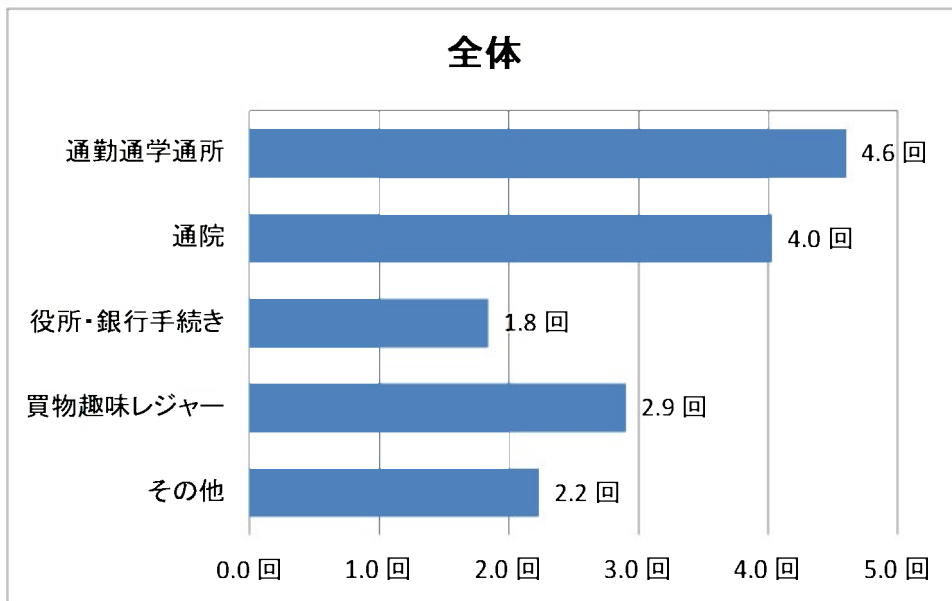
川崎区 n=114	幸区 n=67	中原区 n=80	高津区 n=81
宮前区 n=102	多摩区 n=79	麻生区 n=68	

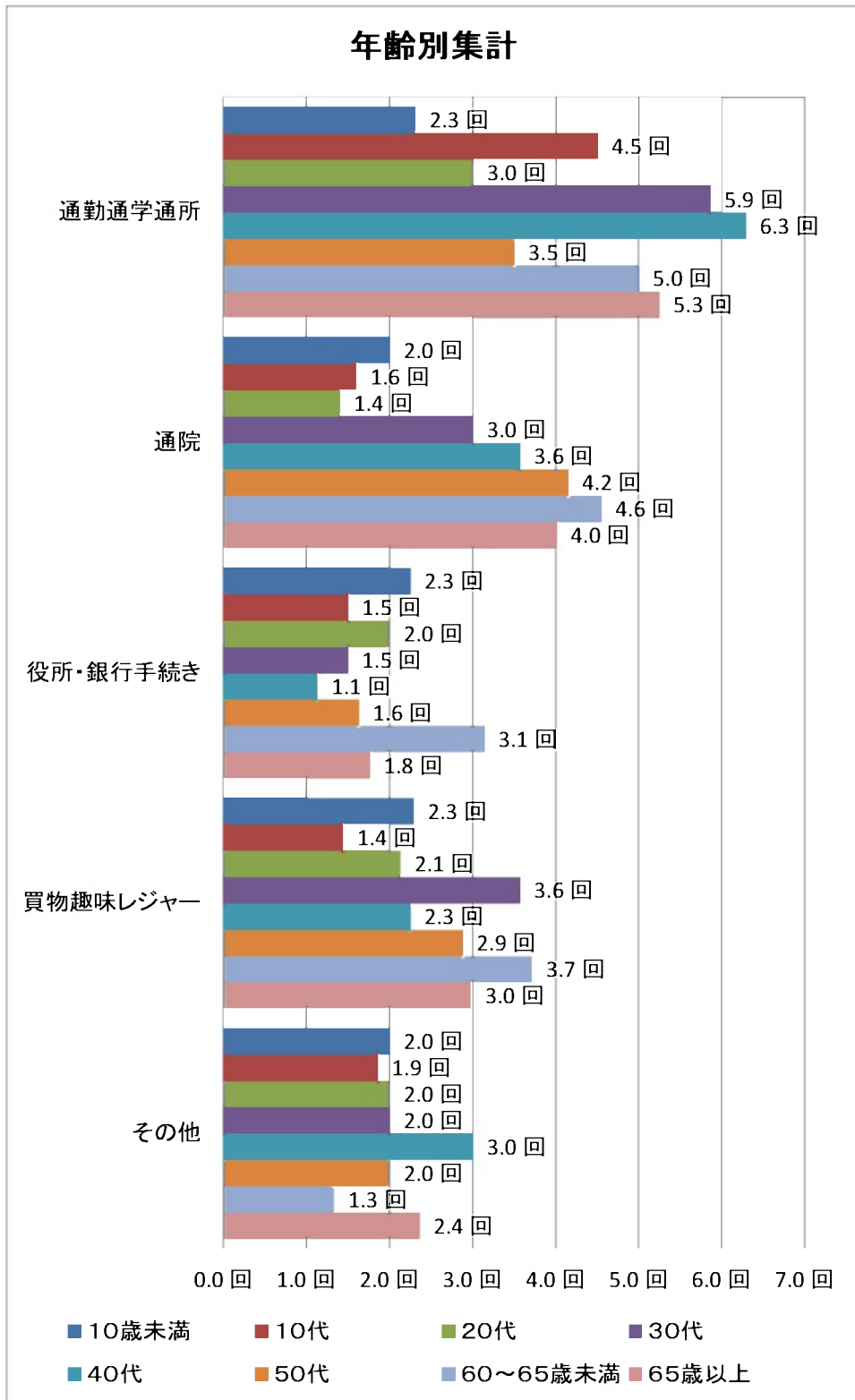
■ 「その他」として記載されていた外出先について

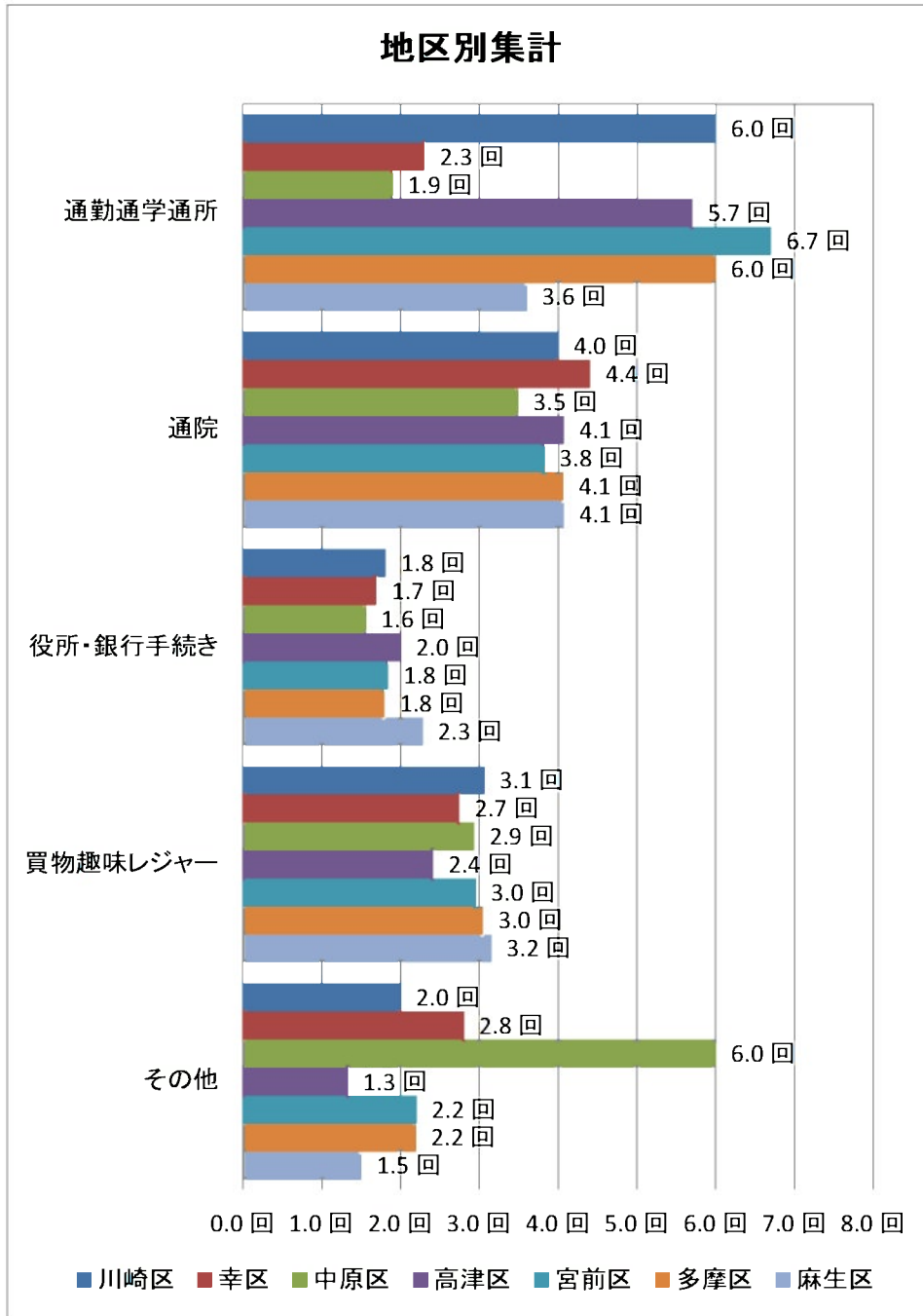
- ・病院（不定期の通院、入院など） 【同意見多数あり】
- ・ショートステイ 【同意見多数あり】
- ・お墓参り 【同意見多数あり】
- ・帰省、親戚宅訪問 【同意見多数あり】
- ・面会
- ・悪天候時の外出
- ・子供の送迎
- ・体調不良時の外出
- ・法事、冠婚葬祭
- ・ボランティア

イ 外出目的ごとの1か月平均利用回数（障害別・年齢別・地区別）

外出目的ごとの1か月平均利用回数については、全体で見ると通勤・通学・通所、通院、買物・趣味・レジャーの順に高くなっています。障害別の集計では、精神障害者の買物・趣味・レジャーの平均利用回数が高くなっているのは、母数が少なく月20回弱と回答した方がいることによるものです。年齢別の集計では、30代、40代の通勤・通学・通所の回数が多く、年齢と共に通院の回数が増える傾向にあります。地区別の集計では、幸区、中原区の通勤・通学・通所の回数が少なくなっています。

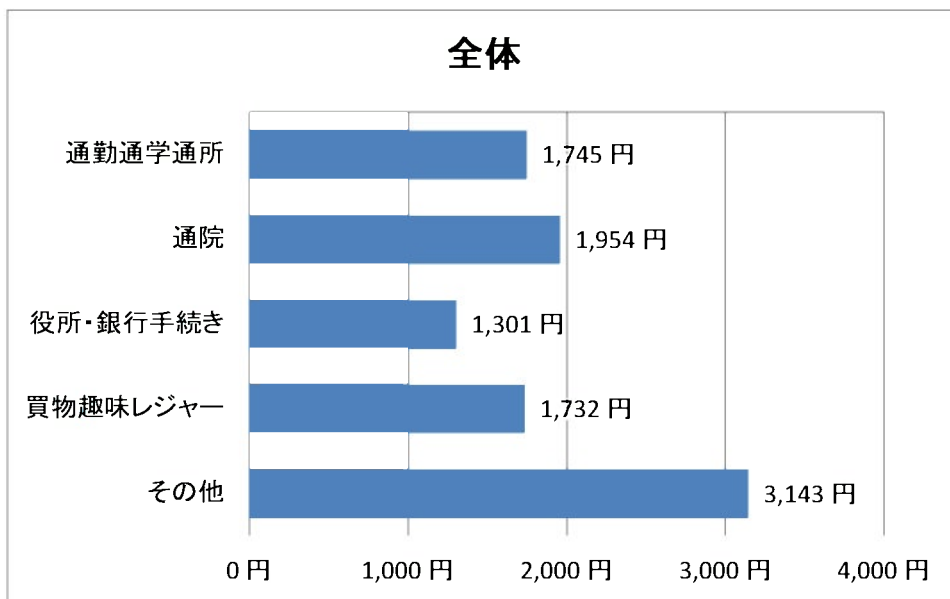


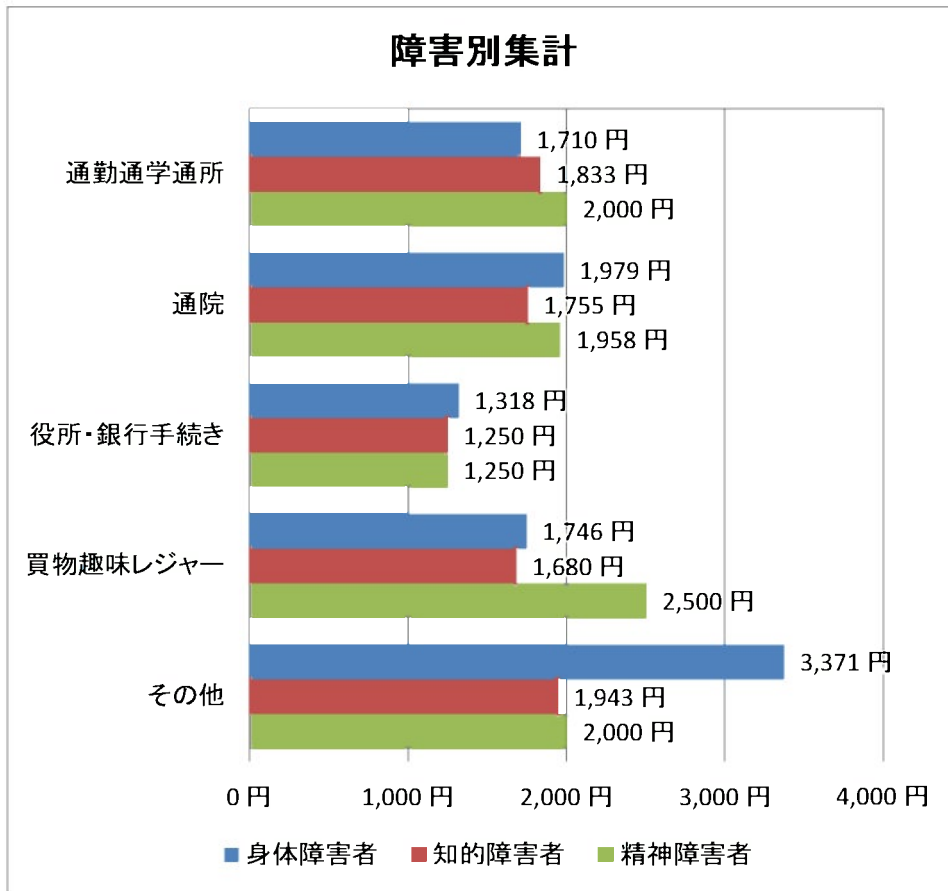


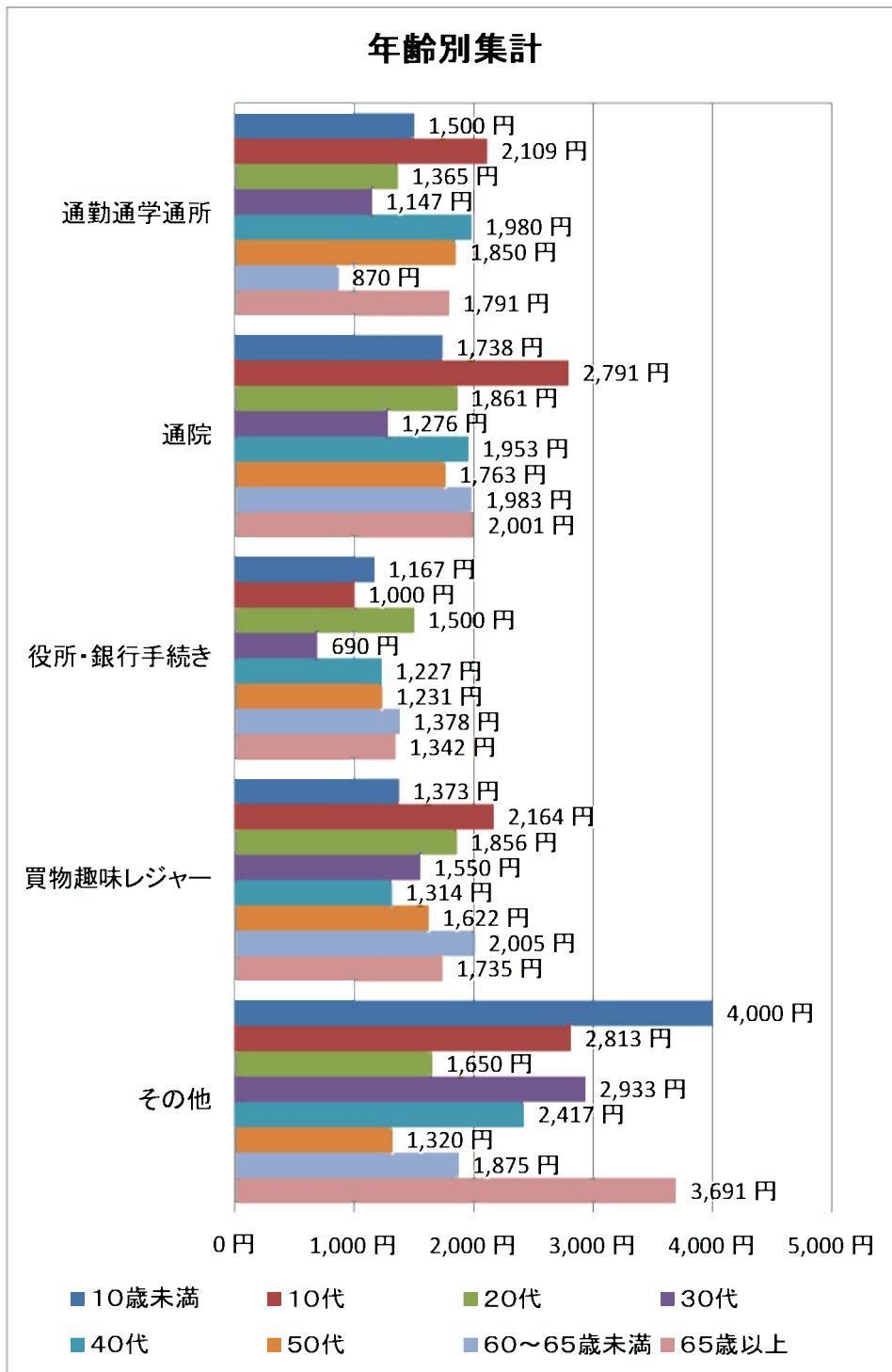


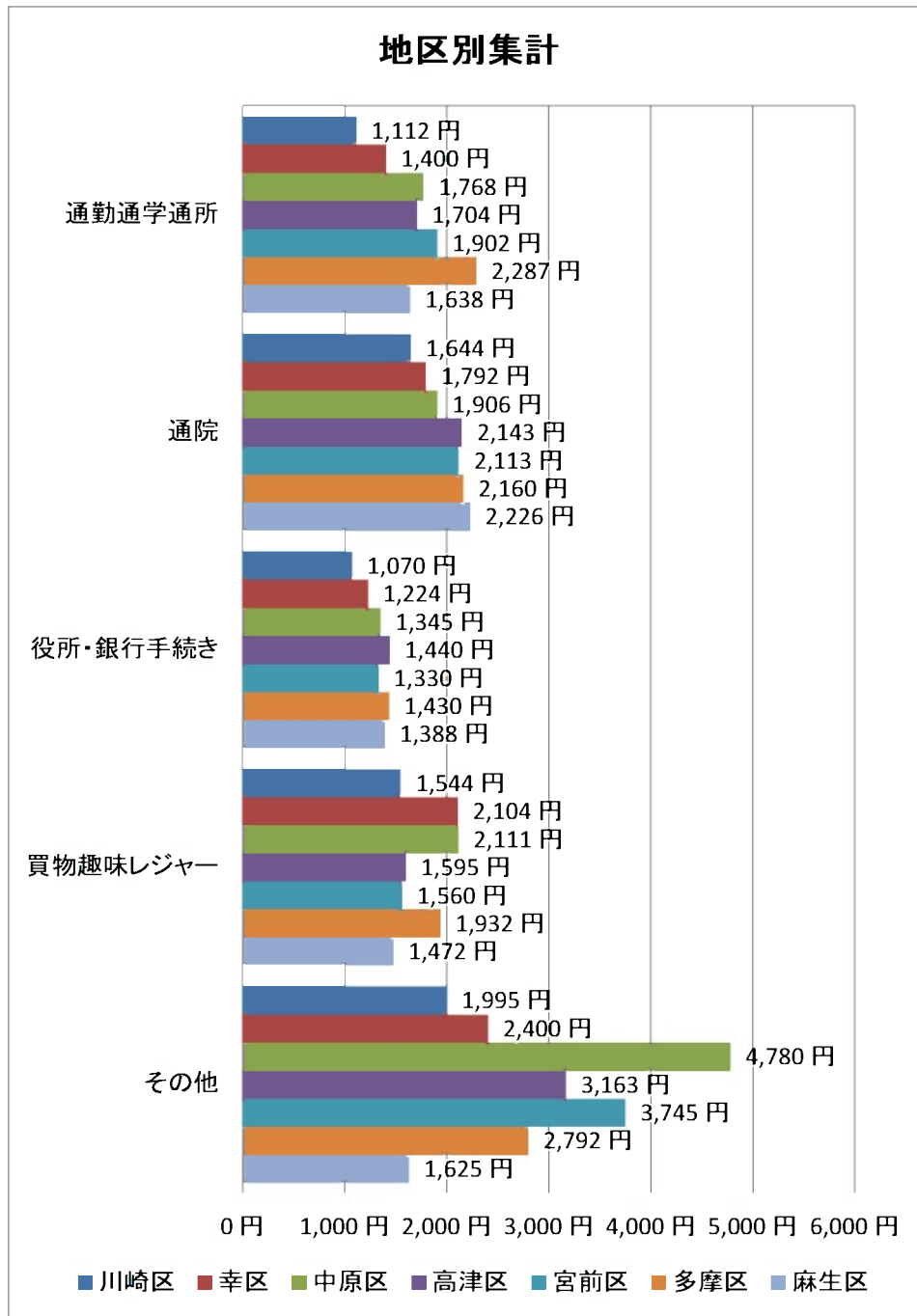
ウ 外出目的ごとの平均片道料金（障害別・年齢別・地区別）

外出目的ごとの平均片道運賃については、その他を除き 1,000 円から 2,000 円の範囲内となっています。その他の平均片道運賃については、不定期の通院、入院などで遠方の病院へ行くという回答が何件か見受けられたので、そのことが高くなっている要因だと考えられます。障害別の集計では、精神障害者の買物・趣味・レジャーが高くなっています。年齢別の集計では、10代の役所・銀行手続きを除く各外出目的が高い傾向にあります。地区別の集計では、通勤・通学・通所、通院において北部の方が、運賃が高くなる傾向がみられます。







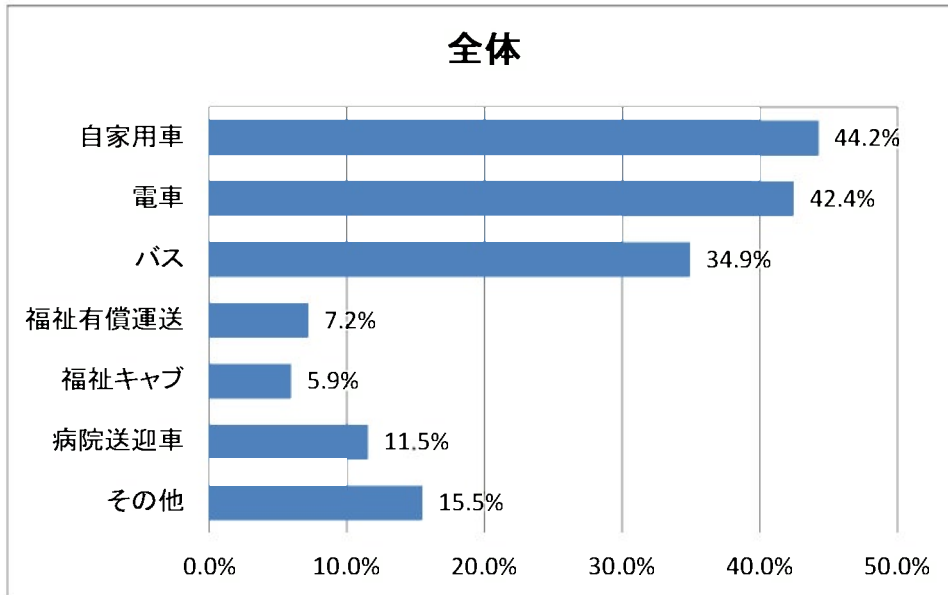


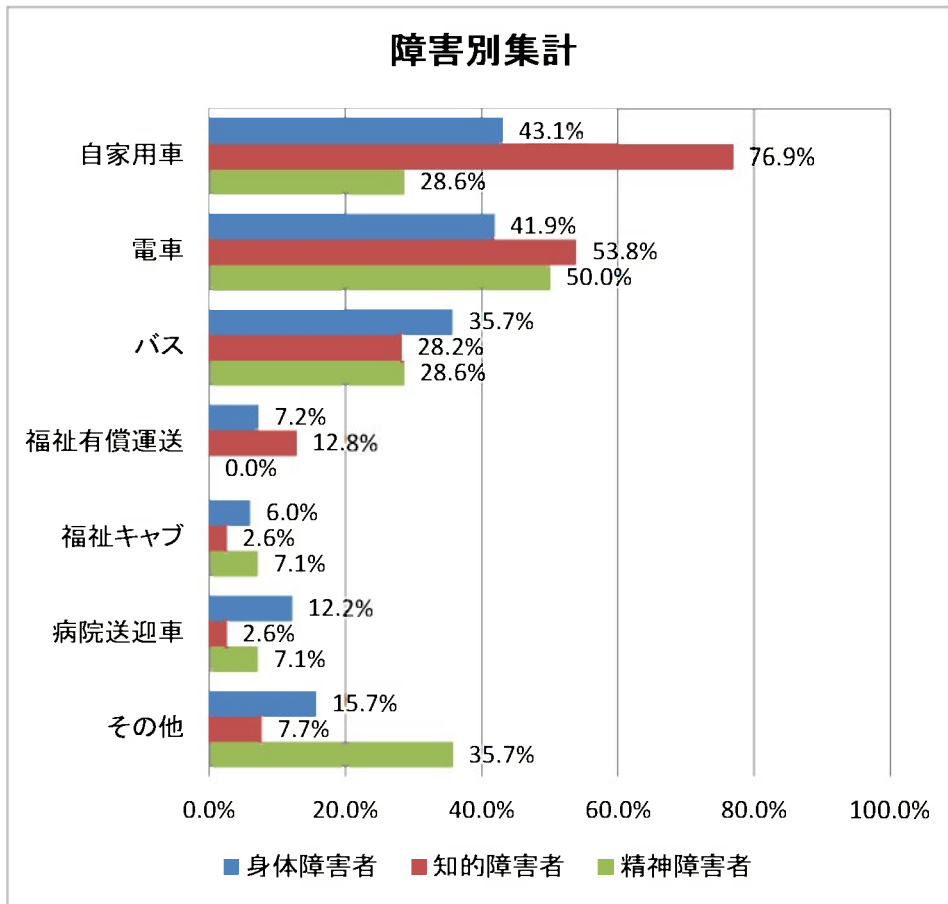
(2) タクシー以外の外出手段の割合（障害別・年齢別・地区別）

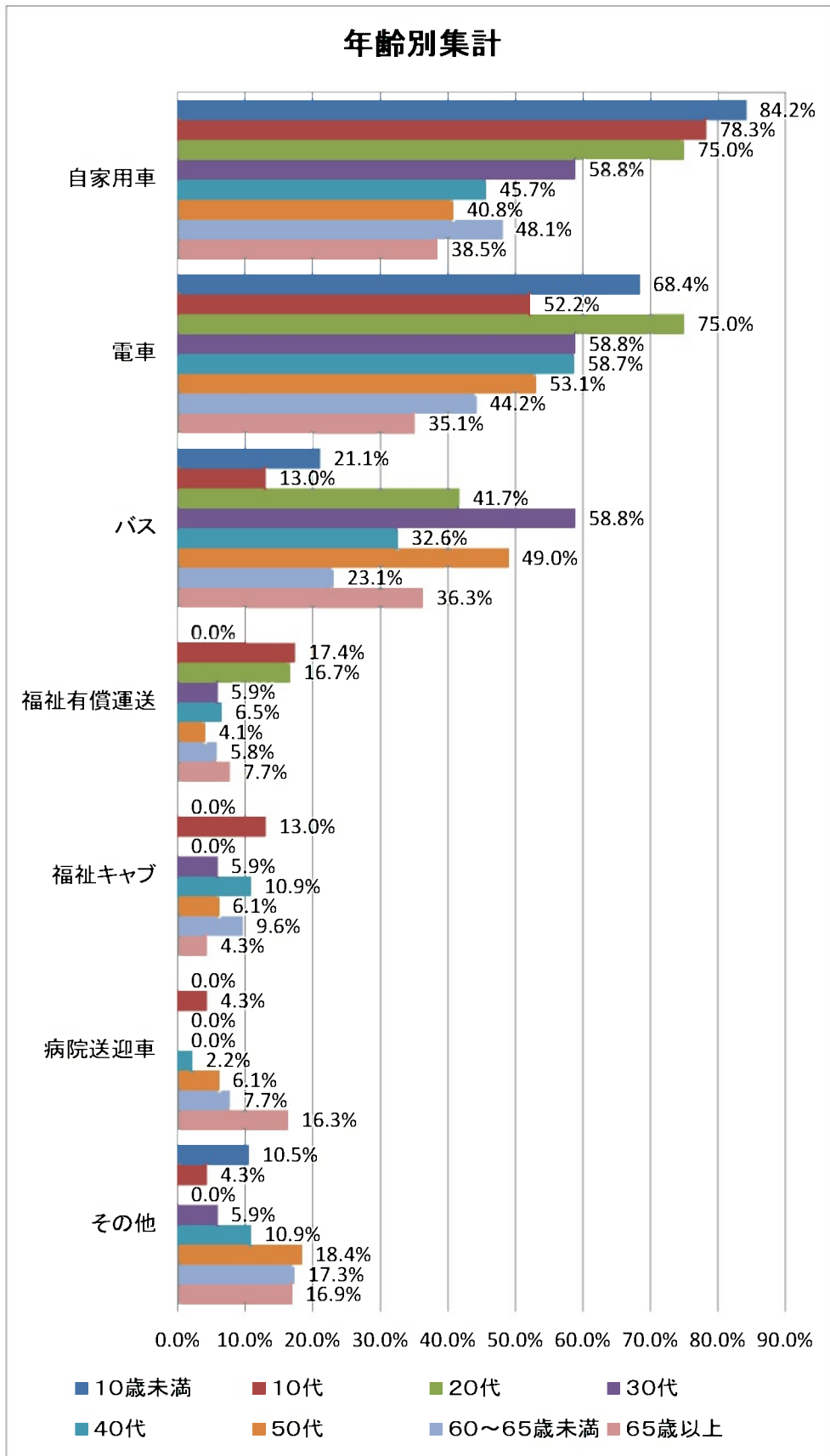
問2 日ごろ利用されている外出手段（タクシー以外）を教えてください。

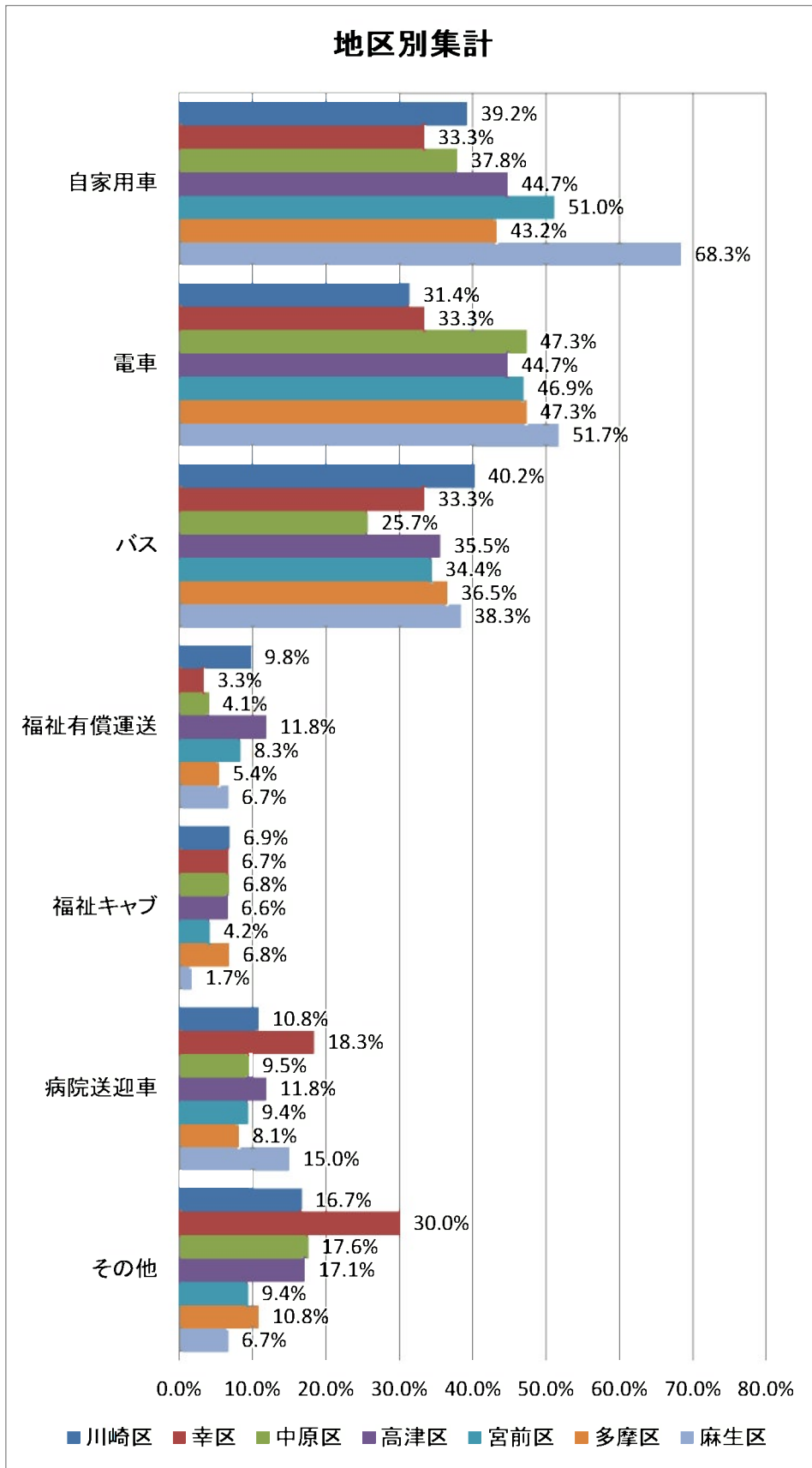
1. 自家用車 2. 電車 3. バス 4. 福祉有償運送
 5. 福祉キャブ 6. 病院などの送迎車 7. その他（ ）

タクシー以外の外出手段については、全体としては自家用車、電車、バスが高い割合であることがわかります。その他の外出手段として、車椅子、自転車、徒歩といった意見も多くみられました。障害別では、知的障害者の自家用車による外出の割合が高いことが特徴的です。年齢別の集計では、20代以下の若年層に自家用車や電車による外出の割合が高く、30代ではバスの割合が高い傾向にあります。地区別では、麻生区の自家用車による外出割合が高くなっています。









■ 問2の有効回答数について

全体

n=556

障害別

身体障害者 n=485	知的障害者 n=39	精神障害者 n=14
-------------	------------	------------

年齢別

10歳未満 n=19	10代 n=23	20代 n=12	30代 n=17
40代 n=46	50代 n=49	60~65歳未満 n=52	65歳以上 n=325

地区別

川崎区 n=102	幸区 n=60	中原区 n=74	高津区 n=76
宮前区 n=96	多摩区 n=74	麻生区 n=60	

■ 「その他」として記載されていた外出手段について

- ・車椅子 【同様の意見多数あり】
- ・家族、友人の車 【同様の意見多数あり】
- ・介護タクシー、福祉タクシー 【同様の意見多数あり】
- ・自転車 【同様の意見多数あり】
- ・徒歩 【同様の意見多数あり】
- ・介護施設の送迎車
- ・レンタカー
- ・UDタクシー
- ・スクールバス
- ・通所先の送迎車

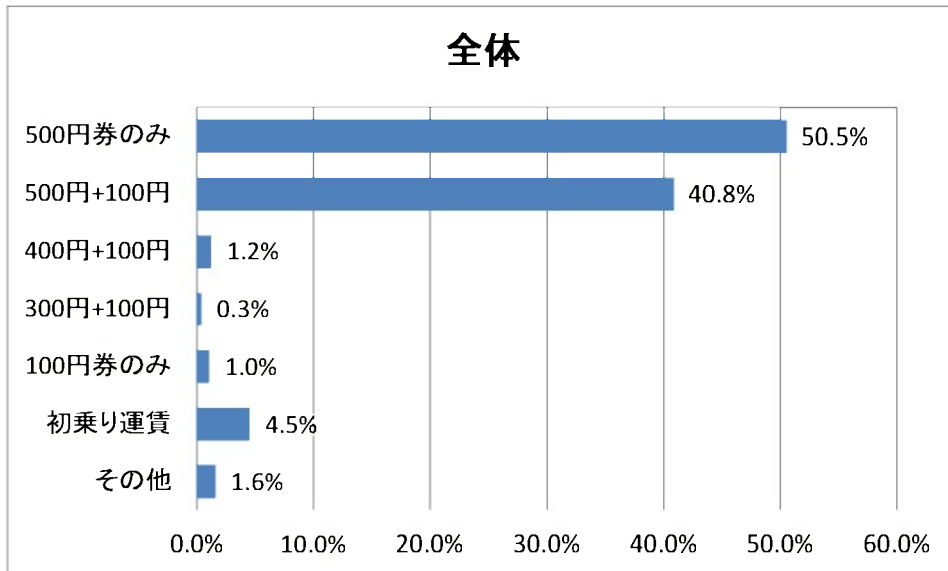
3 制度に対する要望について（問3、問4、問9）

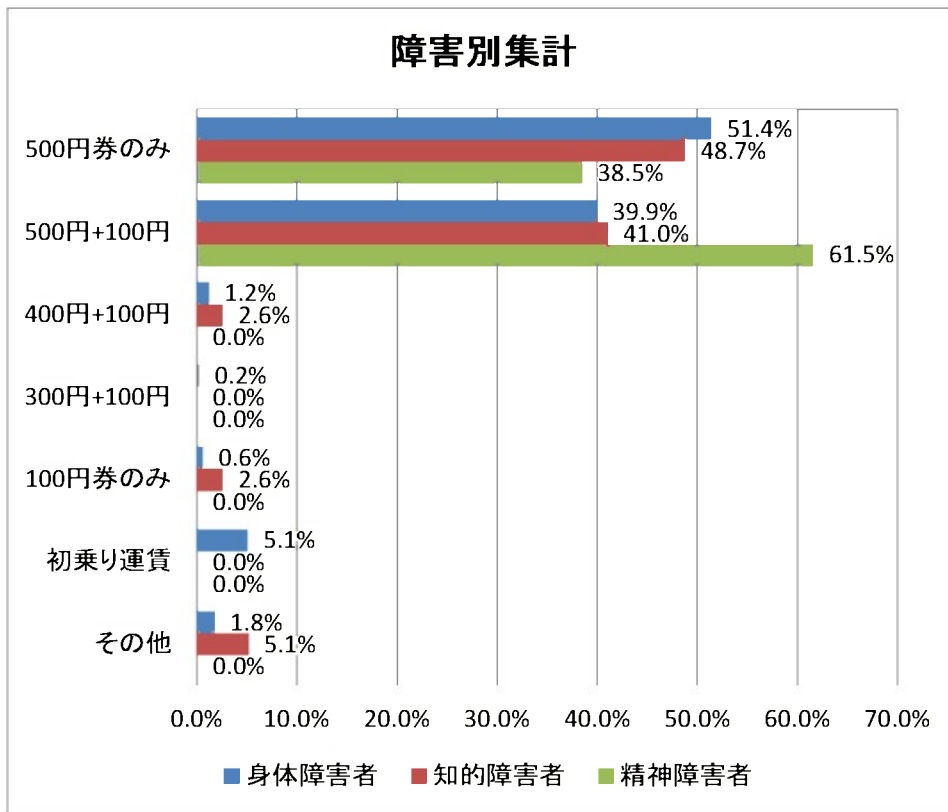
（1） 券の種類希望について

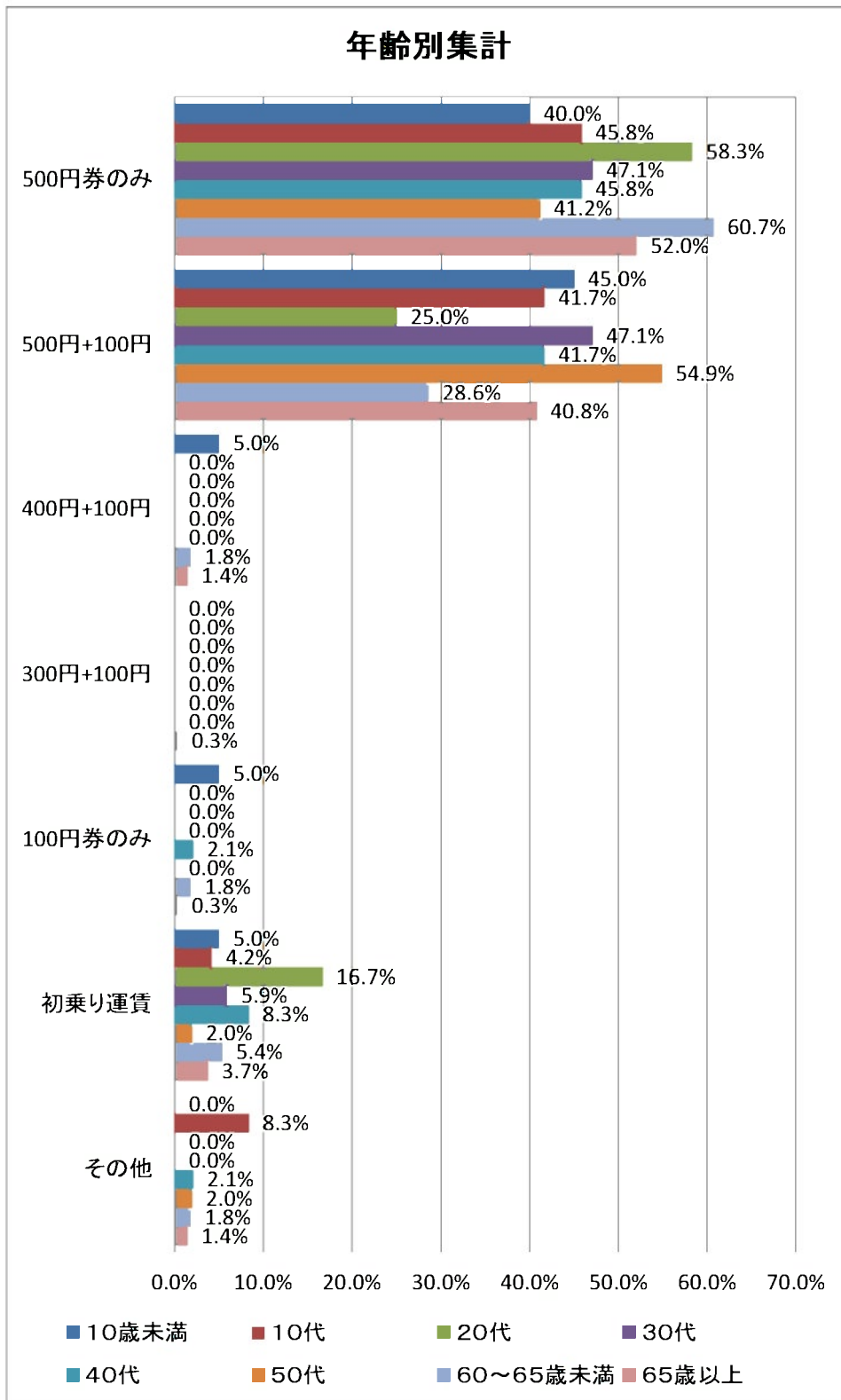
問3 福祉タクシー利用券の「券の種類」について、どのような種類を希望しますか。

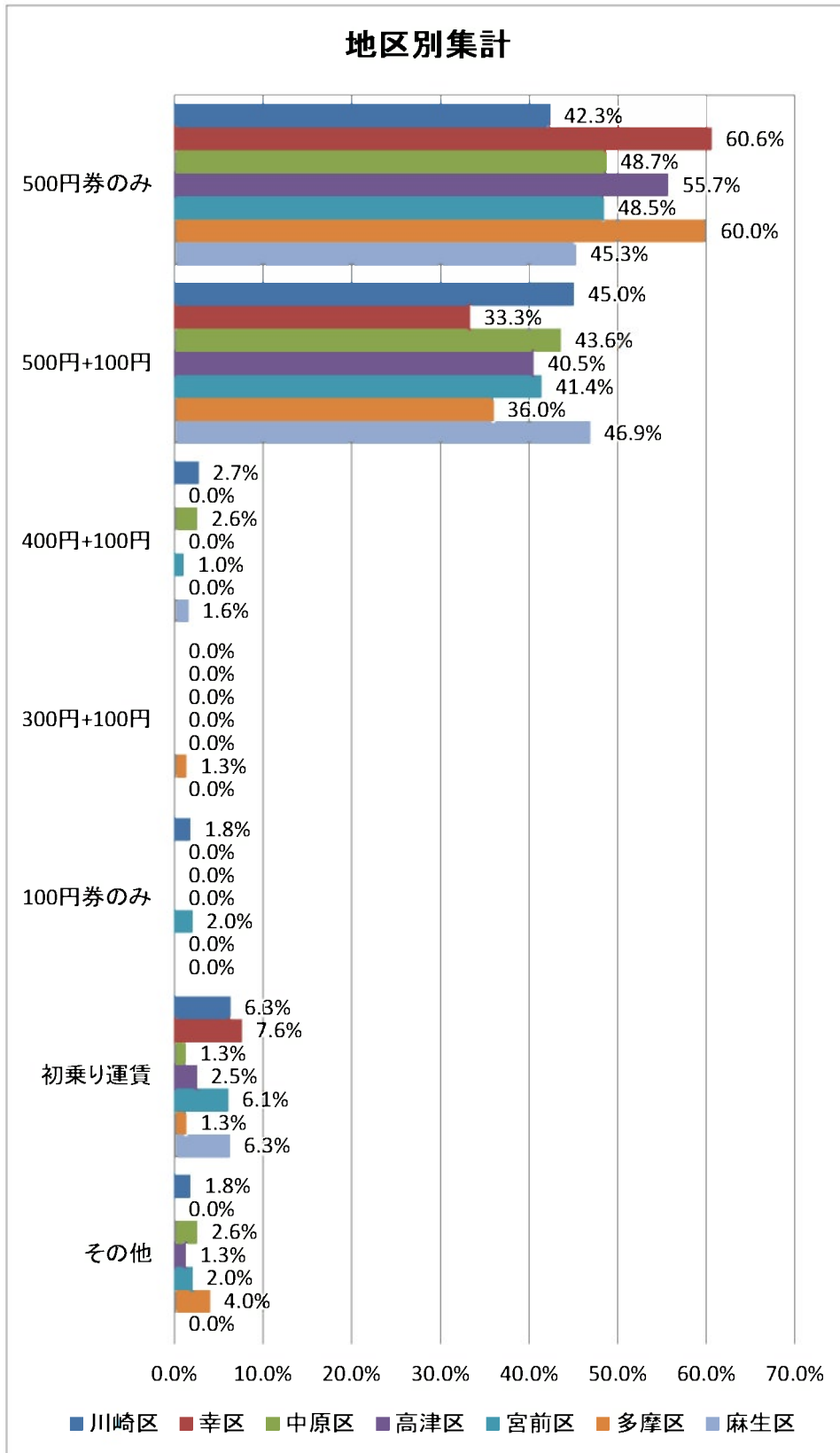
券の種類希望については、現行のままの500円券のみを希望する方が約半数となり、次いで500円券と100円券を希望する方が約4割で、この2つの回答で全体の9割を占める結果となりました。

また、その他の意見として、400円券のみや1,000円券と500円券などを希望する方もいました。









■ 問3の有効回答数について

全体

n=578

障害別

身体障害者 n=559	知的障害者 n=39	精神障害者 n=13
-------------	------------	------------

年齢別

10歳未満 n=20	10代 n=24	20代 n=12	30代 n=17
40代 n=48	50代 n=51	60~65歳未満 n=56	65歳以上 n=348

地区別

川崎区 n=111	幸区 n=66	中原区 n=78	高津区 n=79
宮前区 n=99	多摩区 n=75	麻生区 n=64	

■ 選択した理由として記載されていた意見について

500円券のみ

- 一種類のほうが利用しやすいから。【同様の意見多数あり】
- 料金を精算する時、分かりやすい為。【同様の意見多数あり】
- いろいろな種類があると使いにくい。今の制度で特に問題なし【同様の意見多数あり】
- 500円券のみで充分。端数が出れば、現金で支払えばよいから。【同様の意見多数あり】
- 細かくするとかえって管理は大変になると思います。【同様の意見多数あり】
- 全額使い切るので端数は特に必要ありません
- 種類が急に変わると、とまどってしまう。
- 100円券があると良いと思うが、結局100円券が先に無くなってしまおうと思うので現行で問題ない
- (500円券以外の)枚数増えてもかさばるだけだから。

500円券と100円券

- 500円券と100円券の組み合わせだと自己負担する金額が100円未満ですむ。【同様の意見多数あり】
- (タクシー券は)おつりが出ないから細かい方が良い。【同様の意見多数あり】
- 無駄なく効率的に使用できるため。【同様の意見多数あり】
- 利用させていただく上で100円券があれば、より使い易いと思います。【同様の意見多数あり】

- 100円券のみだとすごい量になるし、今の500円券だと、なかなかびったり払うことができない。

400円券と100円券

- 初乗り400円が始まるから

300円券と100円券

- おつりがもらえない

100円券のみ

- 現在は1枚で500円なので、1,000円に満たないとチケット+現金で払っている。100円券だと必要な分だけチケットで支払えるので使い易そう。

初乗り運賃の金額に合わせる

- 1メーター利用が多いので
- 分かりやすいから

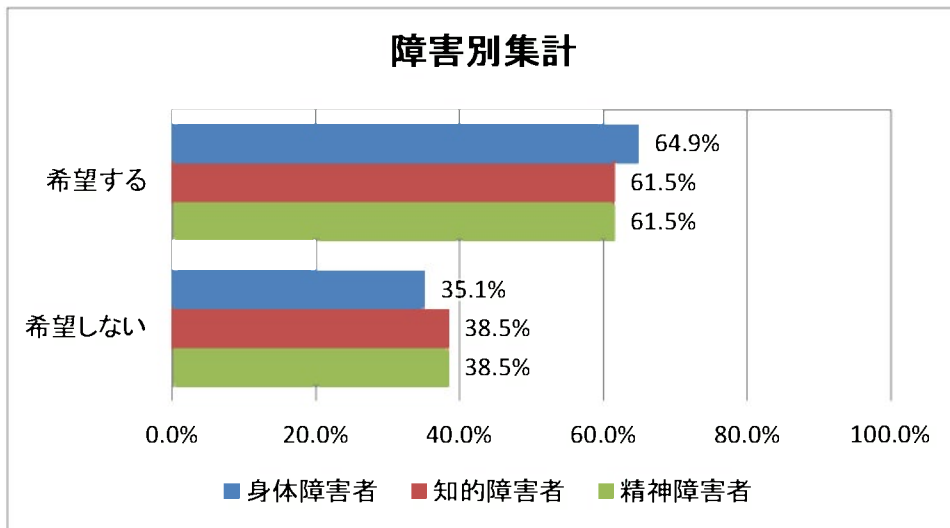
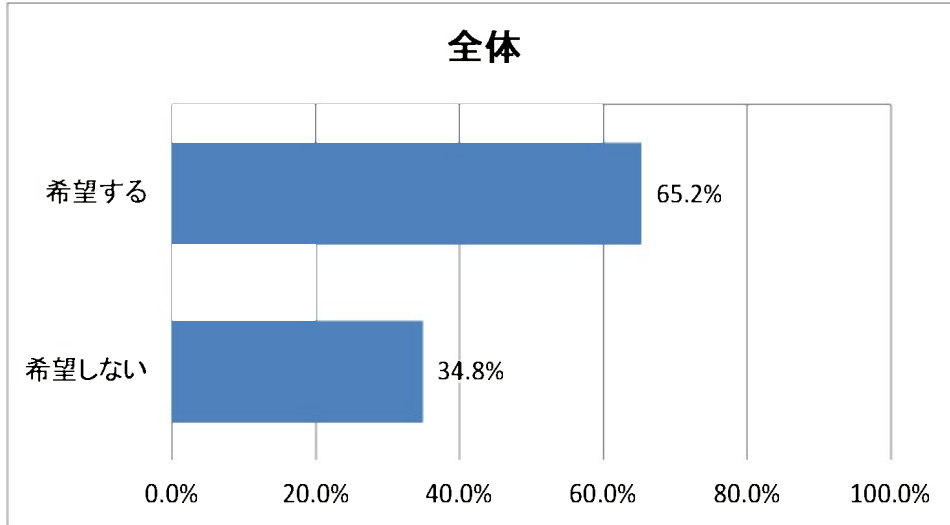
その他（カッコ内は回答券種）

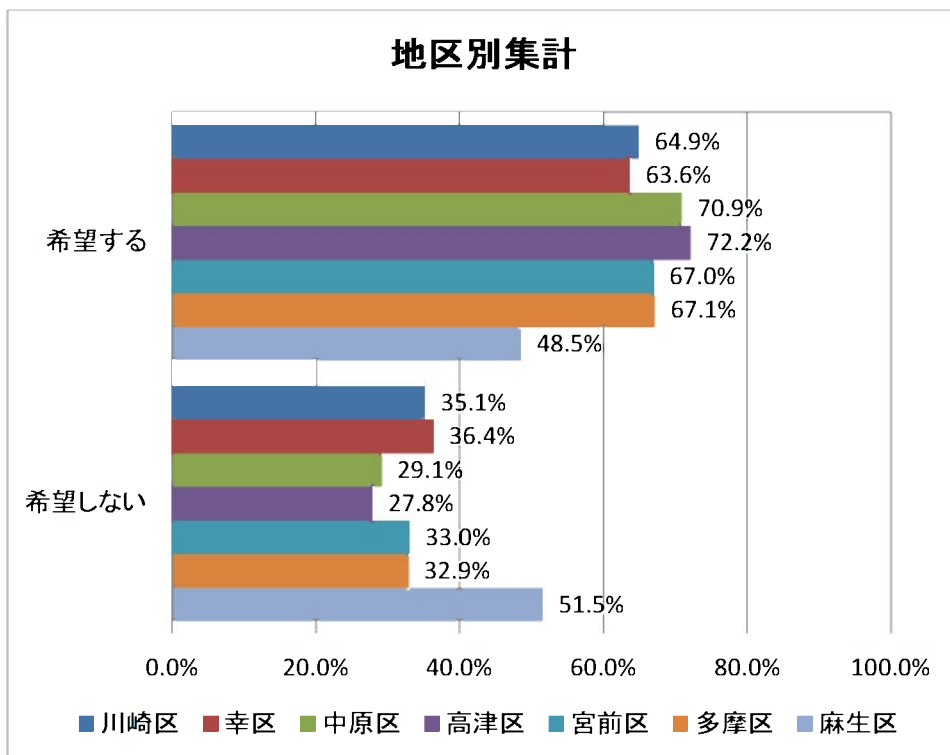
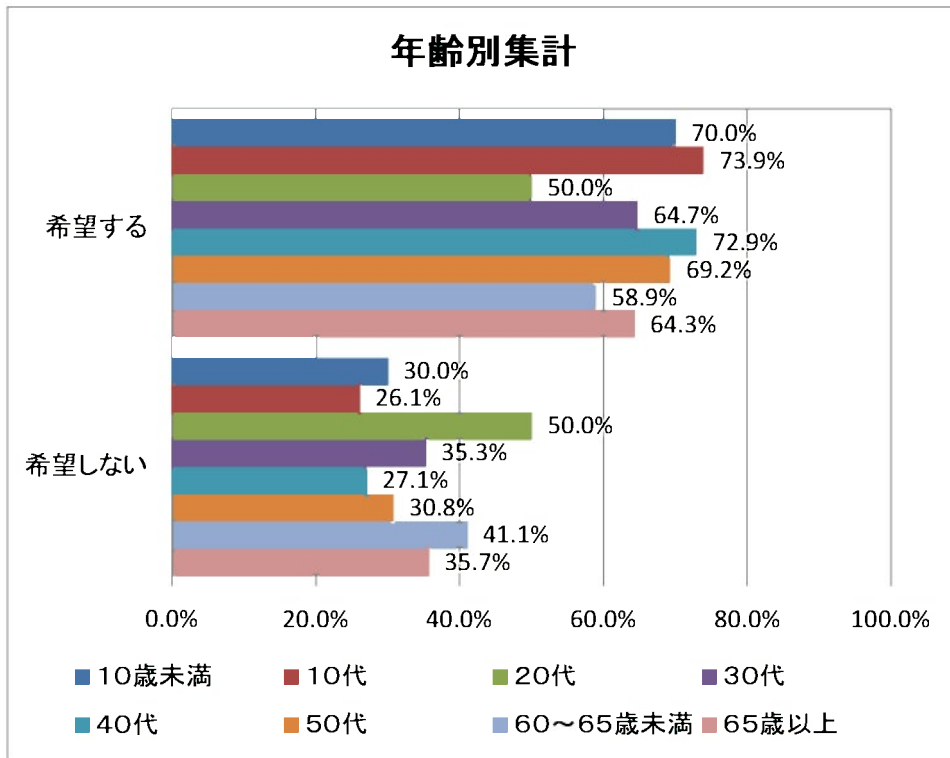
- 種類が多いと、出すときに大変なので一種類の方が良いが、500円券だと必要以上に多く支払うことになる為（400円券のみ）
- 初乗りの場合、150円を自己で負担しなくてはならず500円券2枚出しておつりはこないの、もったいない場合がよくある。（初乗りの運賃に合わせたもの+100円券）
- 支払いが簡単（1000円と500円券）

(2) 郵送の希望について

問4-1 福祉タクシー利用券の郵送による交付を希望しますか。

福祉タクシー券の郵送による交付の希望については、希望する方が約6割5分、希望しない方が約3割5分という結果となりました。この質問の他にも、問10の自由記入欄に郵送を希望する旨を記載している方も見受けられました。





■ 問4-1の有効回答数について

全体

n=580

障害別

身体障害者 n=564	知的障害者 n=39	精神障害者 n=13
-------------	------------	------------

年齢別

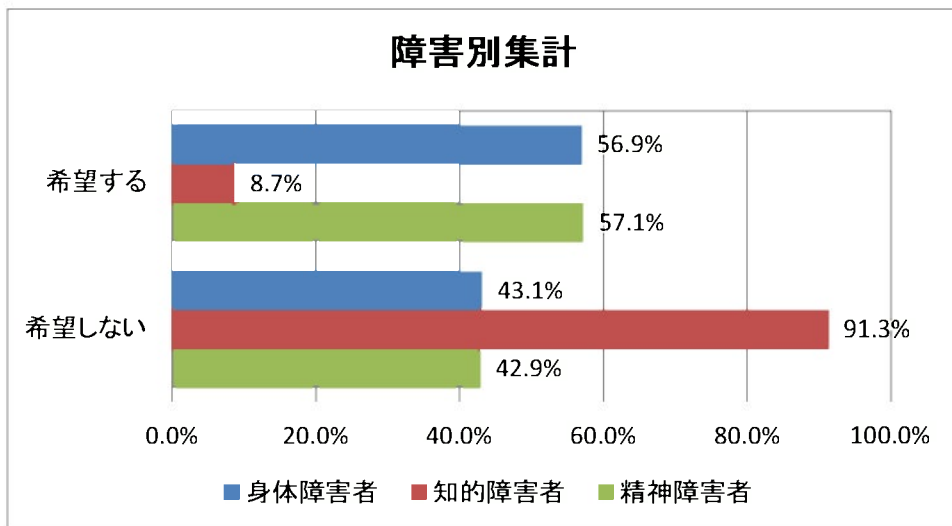
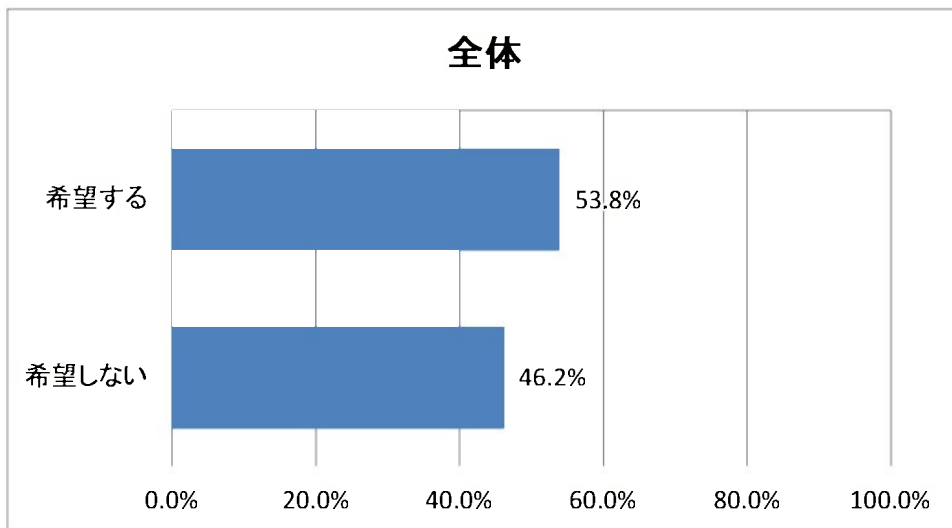
10歳未満 n=20	10代 n=23	20代 n=12	30代 n=17
40代 n=48	50代 n=52	60~65歳未満 n=56	65歳以上 n=350

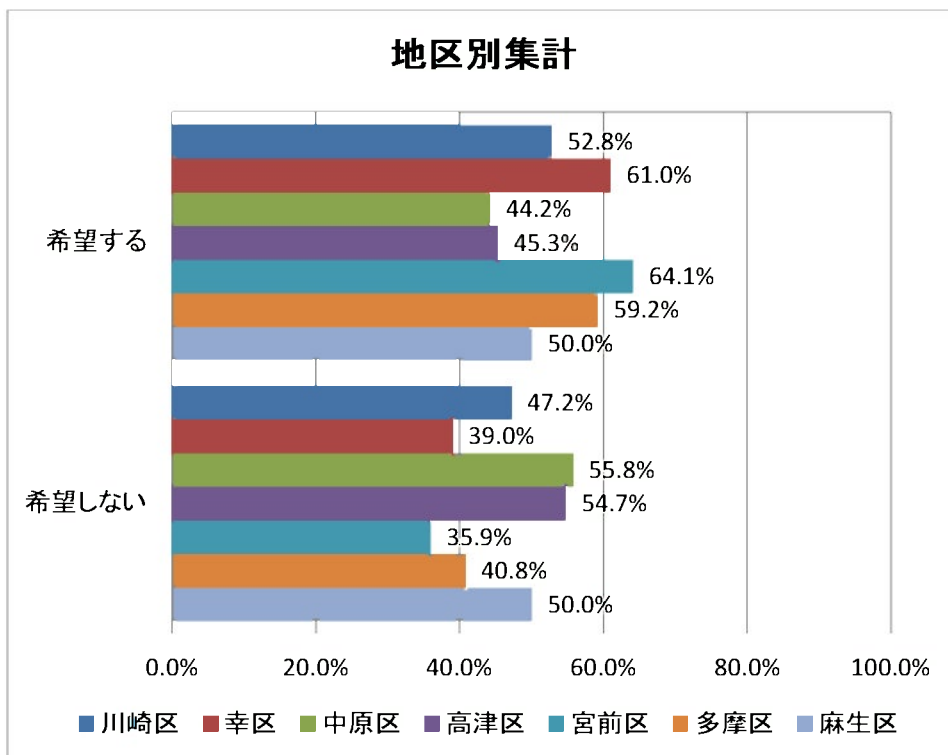
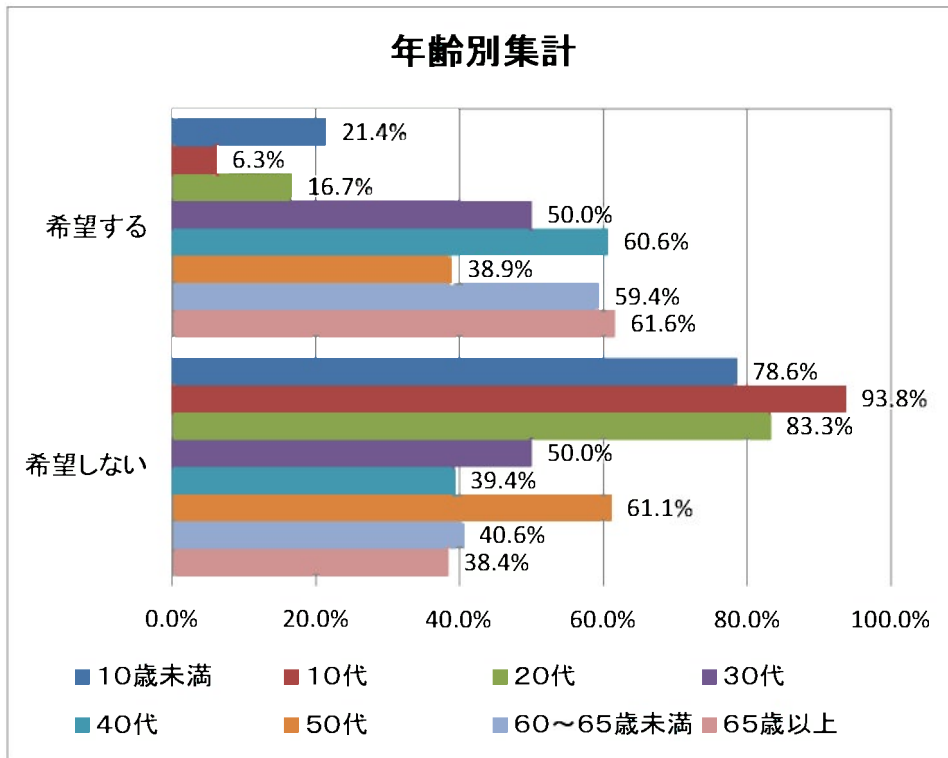
地区別

川崎区 n=111	幸区 n=66	中原区 n=79	高津区 n=79
宮前区 n=100	多摩区 n=76	麻生区 n=66	

問4-2 問4-1で「1. 希望する」を選んだ方にお聞きします。仮に郵送費用が「有料」（簡易書留約450円）であっても希望しますか。

福祉タクシー券の郵送による交付を希望する方に、郵送費用が有料でも希望するかという質問に対しては、5割強の方が希望するという結果となり、自己負担が発生しても郵送による手続きを行いたいという意向が強いことがわかります。





■ 問4-2の有効回答数について

全体

n=364

障害別

身体障害者 n=356	知的障害者 n=23	精神障害者 n=7
-------------	------------	-----------

年齢別

10歳未満 n=14	10代 n=16	20代 n=6	30代 n=10
40代 n=33	50代 n=36	60~65歳未満 n=32	65歳以上 n=216

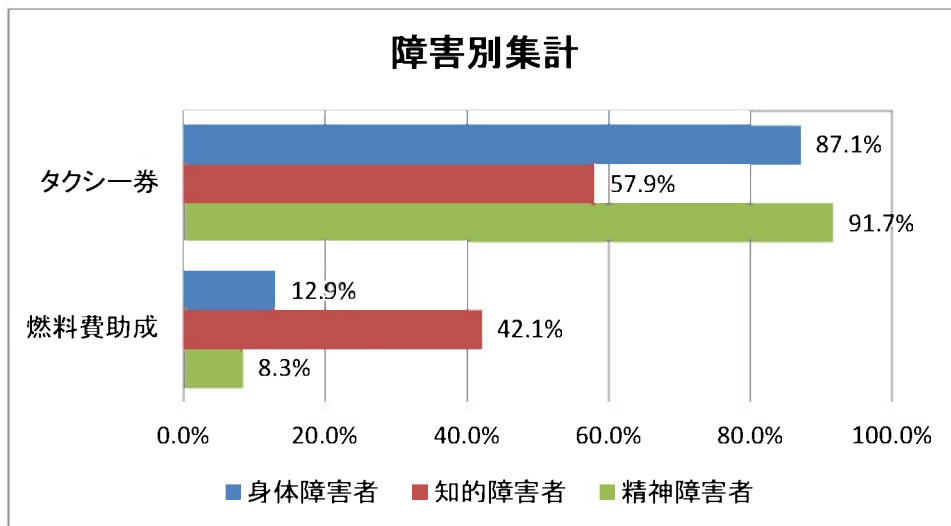
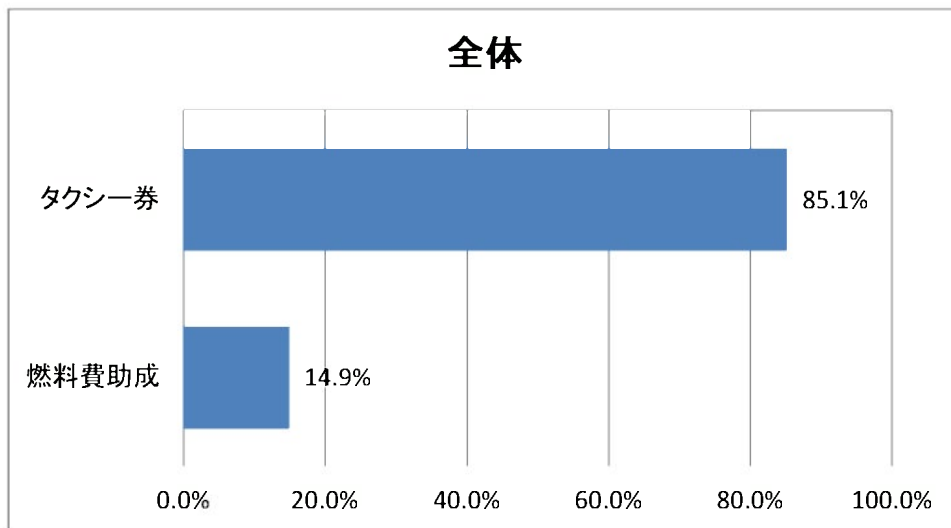
地区別

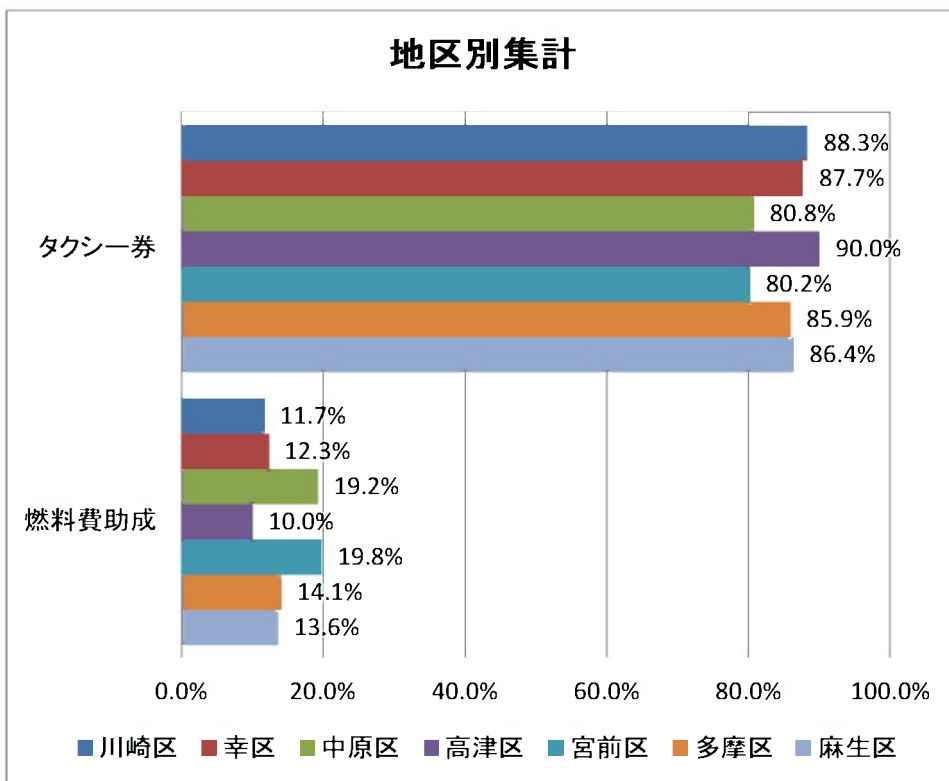
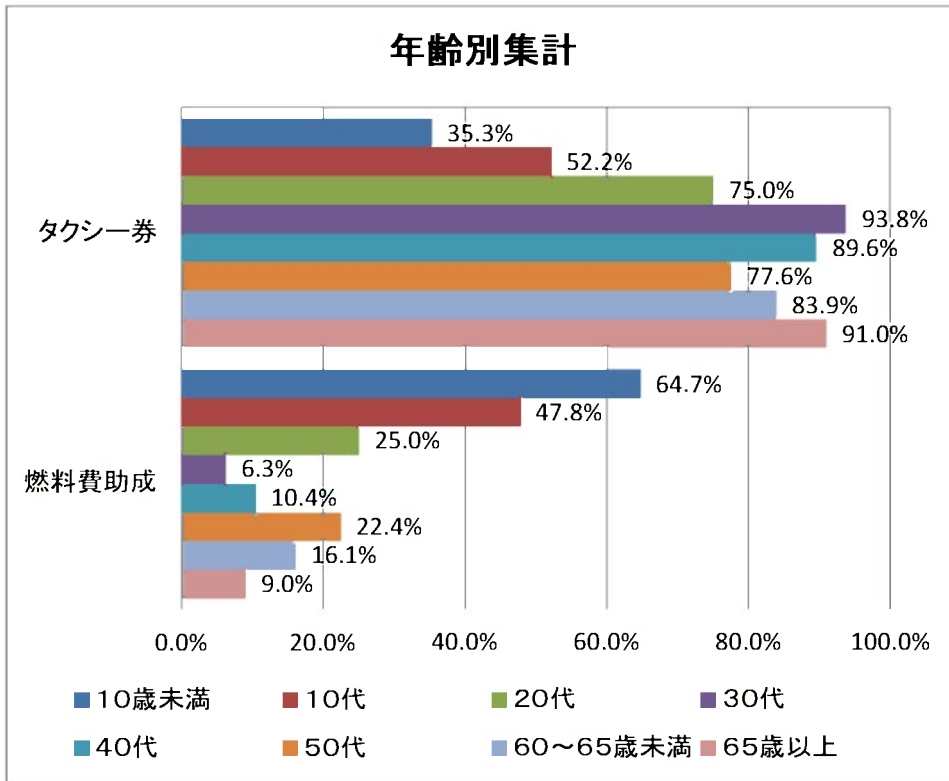
川崎区 n=72	幸区 n=41	中原区 n=52	高津区 n=53
宮前区 n=64	多摩区 n=49	麻生区 n=32	

(3) ガソリン券の希望について

問9 仮に燃料費(ガソリン代)の助成制度があった場合に、タクシー券と燃料費の助成のどちらを選択しますか。

燃料費（ガソリン代）の助成制度があった場合にタクシー券とどちらを選択するかという質問については、燃料費助成を選択する人の割合は約1割5分と、それほど高くはありませんでした。





■ 問9の有効回答数について

全体

n=579

障害別

身体障害者 n=565	知的障害者 n=38	精神障害者 n=12
-------------	------------	------------

年齢別

10歳未満 n=17	10代 n=23	20代 n=12	30代 n=16
40代 n=48	50代 n=49	60~65歳未満 n=56	65歳以上 n=354

地区別

川崎区 n=111	幸区 n=65	中原区 n=78	高津区 n=80
宮前区 n=96	多摩区 n=78	麻生区 n=66	

4 自由記述欄における意見・要望について（問10）

問10 その他、ご意見などがございましたら、ご記入ください。

制度に対する要望

- もっと助成額を上げてほしい。【同様の意見多数あり】
- 東京の病院が多いので神奈川県以外でも利用できたら良いのと思います。【同様の意見多数あり】
- タクシー券を使用する機会がなかったので、燃料費助成にしていただけるとありがたいです。
- この制度を今後も継続してもらいたい。
- 取りにいくのが大変なので、郵送して頂けると助かります。
- タクシー券を介助料、お迎え料金などにも使えるようにしてほしい。
- 急いで迎えに行く時など、親が1人で乗っても使える様にしてほしいです。
- 福祉キャブを増やしてほしい
- UDタクシーを増やしてほしい
- (問9の質問に対して) タクシー券を選択します、が併用できれば良いと思います

制度に対する感謝の声

- タクシー券を頂き、大変助かっております。【同様の意見多数あり】
- 介護人としての親の方も年々年齢を重ねてきて、体力的に不安を抱えることが増えてきています。今後共、手厚い御支援を宜しくお願いいたします。
- 急に具合が悪くなって病院に行くことがあるので、とてもありがたいです。
- 徒歩で出かけたあと、大雨で…なんて時、とても助けてもらっています。手厚い制度だと思います。ありがとうございます。
- 自分で運転もできなくなりました。都会の電車は歩く移動（乗りかえ）も多く、人も多くこわくて足の悪い私には辛いのでタクシーに助けられています。

現在の生活状況について

- 遠出の時だけ利用させて頂き、リハビリ他自宅に来て頂いています。
- 通院が3～5ヶ所の為、タクシー利用が大変便利です。
- 車の免許を返したのでこれからはタクシー券の利用が多くなります。
- タクシー券は私にとってはとても必要。買物でも行きはバスで行っても、買物した後は荷物もあるし、買い物1つでも大変です。

制度に対するご意見

- 本当に必要な人に渡り使用される事が望ましい。自家用車のない人、高齢者 2人で（もちろん 1人）生活をしている人等…
- 障害者を介助する人の健康度によって希望が大きく左右されると思われる。複数の助成方法を用意して、本人に合った助成をすることが喜ばれる有意義な助成になり生きた税の使い方になると考える。
- 以前住んでいた自治体では燃料費助成がありましたが、結局一度ガソリンを入れたら使い切ってしまうかんじだったのであまりよくなかったです。
- 燃料費はその助成額にもよりますので、内容を見てから選択すると思います。

5 調査結果の考察

今回の調査は、福祉タクシー券の利用者を対象に行ったものであるため、回答者についても福祉タクシー券の主な利用者である65歳以上の肢体不自由者が多数を占めるという結果になりました。

福祉タクシー券の利用目的としては通院が最も多く、1か月の平均利用回数が約4回、1回あたりの平均運賃が約2,000円となっており、利用者にとって通院が福祉タクシー券の利用の中心になっていることが分かります。

一方、タクシー以外の外出手段としては、自家用車の回答が最も多く、障害別では知的障害者、年代別では20代以下、地区別では麻生区において利用する人の割合が多いという結果になりました。このことから、「障害の特性あるいは年齢等の理由により公共交通機関の利用が難しい」「地理的な理由により公共交通機関の利用が難しい」のいずれかの条件を満たす場合に、自家用車を利用していることが想定されます。

次に、タクシー券の券種の希望について、希望する券種とその理由を併せて考えると、500円券のみを希望する方は、使いやすさや分かりやすさから選択する方が多く、500円券と100円券を希望する方は負担額を少なくしたい、効率的な使い方をしたいという経済的な理由から選択する方が多いことがわかります。

福祉タクシー券の郵送による交付の希望については、高い割合となっており、自由記述欄では「介助者がいなくなったら希望せざるをえない」といった意見も見受けられることから、今後郵送による交付の希望に対する需要は高くなっていくものと推測されます。

燃料費の助成制度に対する希望については、タクシー券を利用する方の中ではそこまで高くなかったものの、自由記述欄に「サービスの内容を見て決める」「1つの券でどちらも利用できるようにしてほしい」といった意見もあることから、制度の内容次第で利用者の選択が変わってくる可能性もあると考えられます。

その他、自由記述欄の意見としては、助成額をもっと増やして欲しいという意見が多く、交付額以上にタクシー利用の希望があることがうかがえます。また、県外で使いたいという希望も多く、利用者の移動範囲が広域にわたっていることが分かります。

一方で、タクシー券の制度に対する感謝の意見も多く、様々な要望はあるものの、重度障害者の社会参加を促進し、もって福祉の増進を図るという事業目的を一定程度達成できているのではないかと考えられます。

6 アンケートに利用した調査票について

別紙「川崎市重度障害者福祉タクシー利用券 利用者アンケート」のとおり

かわさきしじゅうどしょうがいしゃふくし りょうけん りょうしゃ
川崎市重度障害者福祉タクシー利用券 利用者アンケート

平成28年5月 川崎市健康福祉局障害福祉課

川崎市では、現在、歩行困難な重度の障害がある方に対して、タクシー料金の一部を助成する目的で
重度障害者福祉タクシー利用券を交付しています。

今回、使用方法等を把握するため、アンケート調査を行います。ご協力をお願いいたします。

お手数ですが、アンケート用紙にご記入のうえ、6月17日(金)までに同封の返信用封筒によりご返送
ください。(切手を貼る必要はありません。)

問1 タクシー利用券の使用方法を教えてください。(分かる範囲で構いません。)

- ① タクシー利用券をどのような外出目的に利用していますか。
- ② その頻度は、平均で何回くらいですか。
- ③ それぞれの外出先の片道1回にかかる運賃は、平均でどのくらいですか。

(次の表の中で当てはまるものすべてに〔O〕を付け、②・③をご記入ください。)

① 外出の目的	② 外出の頻度	③ 片道1回のおおよその運賃
1. 通勤・通学・通所	月 回	円
2. 通院	月 回	円
3. 役所や銀行の手続き	月 回	円
4. 買い物・趣味・レジャー	月 回	円
5. その他()	月 回	円

問2 日ごろ利用されている外出手段(タクシー以外)を教えてください。

(当てはまるものすべてに〔O〕を付けてください。)

1. 自家用車	2. 電車	3. バス	4. 福祉有償運送
5. 福祉キャブ	6. 病院などの送迎車	7. その他()	

問3 福祉タクシー利用券の「券の種類」について、どのような種類を希望しますか。

(1つだけ選んで〔O〕を付けてください。)

1. 500円券のみ(今の制度を続ける)	2. 500円券と100円券
3. 400円券と100円券	4. 300円券と100円券
5. 100円券のみ	6. 初乗り運賃の金額に合わせる(650円など)
7. その他()	

選んだ理由を教えてください。

⇒裏面もご記入下さい。

問4-1 福祉タクシー利用券の郵送による交付を希望しますか。(1つだけ選んで○を付けてください。)

1. 希望する 2. 希望しない

問4-2 問4-1で「1. 希望する」を選んだ方にお聞きします。仮に郵送費用が「有料」(簡易書留約450円)であっても希望しますか。(1つだけ選んで〔O〕を付けてください。)

1. 希望する 2. 希望しない

問5 タクシー券を利用されている方の、現在のお住まいの区を教えてください。

1. 川崎区 2. 幸区 3. 中原区 4. 高津区 5. 宮前区 6. 多摩区 7. 麻生区

問6 タクシー券を利用されている方の、現在の年齢を教えてください。

1. 10歳未満 2. 10代 3. 20代 4. 30代
5. 40代 6. 50代 7. 60歳~65歳未満 8. 65歳以上

問7 タクシー券を利用されている方の、障害者手帳を取得した時の年齢を教えてください。

1. 20歳未満 2. 20代~30代 3. 40代~65歳未満 4. 65歳以上

問8 次のどの手帳をお持ちですか。(当てはまるものすべてに〔O〕を付けてください。)

「身体障害者手帳」をお持ちの方は、【障害名】にも〔O〕を付けてください。

【身体障害者手帳】	1. 1級	2. 2級	3. 3級
【障害名】	1. 肢体	2. 視覚	3. 内部 (a.心臓 b.じん臓 c.その他)
【療育手帳】	1. A1	2. A2	3. B1
【精神障害者保健福祉手帳】	1. 1級		

問9 仮に燃料費(ガソリン代)の助成制度があった場合に、タクシー券と燃料費の助成のどちらを選択しますか。

1. タクシー券を選択する 2. 燃料費助成を選択する

問10 その他、ご意見などがございましたら、ご記入ください。

ご回答いただきありがとうございました。

なお、アンケートの回答結果は障害福祉施策の資料としてのみに使わせていただきます。

また、本アンケートにご記入いただきました情報は、本調査の目的以外に利用することはありません。

お問い合わせ先：川崎市 健康福祉局 障害保健福祉部 障害福祉課 社会参加支援係

(土曜・日曜・祝日を除く、午前8時30分から午後5時まで)

〒212-0013 川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア西館10階

電話：044-200-2928 ファックス：044-200-3932